

salesforce

Marketing Cloud Connect 実装 ガイド

Salesforce, Spring '24



 @salesforcedocs

最終更新日: 2024/02/16

本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2024 Salesforce, Inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、Salesforce, Inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

Marketing Cloud Connect 実装ガイド	1
Marketing Cloud Connect の設定	2
Marketing Cloud Connect の機能	4
前提条件	9
Marketing Cloud Connect のユーザーの種別と権限	10
ユーザーのデータアクセスに関するアカウント設定	12
Marketing Cloud Connect 管理パッケージのインストール	14
Marketing Cloud Connect での管理者権限の適用	14
Marketing Cloud Connect での Salesforce システムユーザーの設定	15
Marketing Cloud Connect を使用したアカウントの接続	16
Marketing Cloud Connect での Marketing Cloud API ユーザーの作成	17
Marketing Cloud Connect での Marketing Cloud API ユーザーの接続	18
ビジネスユニットの割り当て	18
認証の設定	19
デフォルトのワークフローユーザーの指定	21
項目レベルセキュリティの更新	21
ページレイアウトの更新	22
設定ウィザードの起動	23
Marketing Cloud への接続	24
Marketing Cloud Connector 設定の管理	24
ビジネスユニットの管理	26
属性項目のマッピング	27
Marketing Cloud Connect での接続のテスト	28
ユーザーの管理	29
Enterprise 2.0 Marketing Cloud アカウント	29
他のすべての Marketing Cloud アカウント	30
ユーザーと Marketing Cloud の連携	30
Marketing Cloud Connect の使用事例	32
Marketing Cloud Connect での複数組織アカウント構成	33
複数組織のアカウントとユーザーの設定	34
複数組織の FAQ	36
複数組織アカウントへのアップグレード	39
メール送信	40
Marketing Cloud Connect での単一メールの送信	41
キャンペーンまたはレポートへの送信	42
キャンペーンまたはレポートへの Marketing Cloud 送信	43
Marketing Cloud Connect の Salesforce データエクステンション	44

目次

Salesforce データエクステンションまたはフィルターへの送信	45
トリガーによる送信	46
Marketing Cloud Connect のトリガーによる送信について	46
オブジェクトとトリガーの設定	48
Marketing Cloud Connect での Salesforce のトリガーによる送信の作成	48
カスタムオブジェクトによるパーソナライズ	49
テストオブジェクトトリガー	50
Contact Builder の同期したデータソース	51
Contact Builder での同期したデータソースの作成	52
Journey Builder 連携	54
Sales Cloud と Service Cloud のアクティビティ	54
Salesforce データイベント	56

Marketing Cloud Connect 実装ガイド

Marketing Cloud Connect は、Marketing Cloud のデジタルマーケティング機能と Salesforce のデータ管理、セグメンテーション、およびキャンペーン管理ツールを結合します。データ主導のパーソナライズされた対話とカスタマージャーニーを自動化する機能により、統一されたカスタマーリレーションを作り出すことができます。Marketing Cloud Connect を使用すると、強力な Marketing Cloud ツールに Sales Cloud または Service Cloud 内から直接アクセスできます。一貫性のあるブランド設定とメッセージを確保しながら、関連性の高い対話で顧客とエンゲージし、最終的により多くのリードを Salesforce に取り込むことができます。

このガイドの対象者

このガイドは、Marketing Cloud Connect を実装して特定の機能を構成する Salesforce CRM および Marketing Cloud 管理者を対象としています。

開始する前に

このガイドの機能リストを確認し、Marketing Cloud Connect と特定の Salesforce エディションおよび機能の連携方法を検討します。

Marketing Cloud Connect は、Salesforce Unlimited Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、または Developer Edition Sandbox で使用できます。Marketing Cloud Connect は、Marketing Cloud Core Edition、Advanced Edition、Agency Edition、Enterprise 1.0 ロック&パブリッシュ、Enterprise 2.0 Edition、Reseller Edition、または Marketing Cloud Sandbox で使用できます。

Marketing Cloud Connect では Lightning Experience はサポートされていません。Salesforce で Lightning Experience を使用している場合、[Marketing Cloud Connect] タブをクリックすると自動的に Salesforce Classic にリダイレクトされます。Lightning Professional Edition は、Salesforce 連携 V2 および Marketing Cloud Connect ではサポートされていません。Government Cloud では、カスタムインストールが必要です。インストールをスケジュールするには、少なくとも 30 日前にアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。Marketing Cloud Connect では CipherCloud はサポートされていません。

Marketing Cloud Connect の設定

最小システム要件と Marketing Cloud Connect の主要な概念をレビューして、ユーザー種別を把握します。設定用のデータアクセスオプションを選択します。最新の管理パッケージをインストールして、設定プロセスを開始します。

Marketing Cloud Connect の機能

Marketing Cloud Connect に関するエディションの互換性と使用できる機能について説明します。

前提条件

Marketing Cloud 管理者と Sales Cloud または Service Cloud 管理者は、Marketing Cloud Connect をインストールする前に次の前提条件をレビューしてください。

Marketing Cloud Connect のユーザーの種別と権限

Marketing Cloud と Sales Cloud または Service Cloud の管理者は、Marketing Cloud Connect に関連するユーザーの種別と権限について理解する必要があります。正しく設定するためには、これが非常に重要です。

ユーザーのデータアクセスに関するアカウント設定

Marketing Cloud Engagement 管理者と Sales Cloud または Service Cloud 管理者は、次のオプションを確認して Marketing Cloud Connect データを設定します。アカウントをユーザー別のスコープとユーザー別のスコープなしのどちらで設定するかを選択します。

Marketing Cloud Connect 管理パッケージのインストール

Sales Cloud または Service Cloud 管理者は、次の手順を確認して Marketing Cloud Connect 管理パッケージをインストールします。

Marketing Cloud Connect での管理者権限の適用

Marketing Engagement 向け Marketing Cloud Connect 管理者ユーザーに管理者権限を適用します。これらの権限により、Sales Cloud または Service Cloud 管理者が Marketing Cloud Connect を設定できます。

Marketing Cloud Connect での Salesforce システムユーザーの設定

Sales Cloud または Service Cloud 管理者は Salesforce システムユーザーを作成します。このユーザーは Marketing Cloud Connect 設定用のアカウントを接続します。

Marketing Cloud Connect を使用したアカウントの接続

Marketing Cloud アカウントを対応する Sales Cloud または Service Cloud 組織にアカウントレベルで接続し、Marketing Cloud Connect の設定を続行します。

Marketing Cloud Connect での Marketing Cloud API ユーザーの作成

Marketing Cloud Connect で Marketing Cloud API ユーザーを作成します。

Marketing Cloud Connect での Marketing Cloud API ユーザーの接続

Marketing Cloud API ユーザーを Salesforce システムユーザーに接続し、Marketing Cloud Connect でコアシステムの通信アクティビティを可能にします。これらのアクティビティには、Marketing Cloud から Sales Cloud または Service Cloud へのトラッキングデータの転送が含まれます。

ビジネスユニットの割り当て

Marketing Cloud Engagement Enterprise 2.0 アカウントの場合、該当するビジネスユニットを Marketing Cloud Engagement API ユーザーに割り当てます。Marketing Cloud Engagement での Marketing Cloud Connect API ユーザーのビジネスユニットアクセス権によって、Sales Cloud または Service Cloud 内で使用できるビジネスユニットが決まります。

認証の設定

次のタスクを完了し、Marketing Cloud Connect の接続アプリケーション認証を設定します。

デフォルトのワークフローユーザーの指定

Marketing Cloud Connect の CRM 設定でデフォルトのワークフローユーザーを指定する手順を実行します。

項目レベルセキュリティの更新

項目レベルセキュリティを変更し、リードと取引先責任者にメール送信除外フィールドを表示してください。Marketing Cloud Connect によって Marketing Cloud メールを送信する場合は、このようにする必要があります。

ページレイアウトの更新

メールとモバイルの送信トラッキングを取引先責任者ページとリードページに追加して、Sales Cloud と Service Cloud の Marketing Cloud Connect 用の設定を続けてください。

設定ウィザードの起動

Sales Cloud または Service Cloud で Marketing Cloud Connect を設定するには、Salesforce Classic UI で設定ウィザードを起動します。

Marketing Cloud への接続

Sales Cloud または Service Cloud 管理者は、Marketing Cloud API ユーザーの資格情報を使用して Sales Cloud または Service Cloud アカウントを Marketing Cloud アカウントと接続します。このタスクでは、Marketing Cloud Connect のアカウントレベルの接続を完了します。

Marketing Cloud Connector 設定の管理

システム管理者は、Sales Cloud または Service Cloud で Marketing Cloud オブジェクトに移動し、Marketing Cloud Connect 設定および送信構成にアクセスします。システム管理者は、インストールおよび設定プロセスの後で次の設定(送信、トラッキング、ユーザー、ビジネスユニットなど)を指定し、Marketing Cloud Connect を介した送信を有効にできます。設定はいつでも編集できます。

ビジネスユニットの管理

Marketing Cloud Connect 管理者がクラウド間で Marketing Cloud Enterprise 2.0 アカウントのビジネスユニットをマップして Marketing Cloud Connect で使用できるようにするには、次の手順に従います。所有するアカウントの種別が不明な場合は、詳細は、Marketing Cloud エディションを確認してください。

属性項目のマップ

コミュニケーションをパーソナライズするには、Marketing Cloud 内で Sales Cloud の取引先責任者、リード、取引先オブジェクトをマップして、属性をクラウド間で共有し、Marketing Cloud Connect コミュニケーションのパーソナライズを有効にします。複数組織では、Web コレクトまたはカスタムフィールドと属性のマッピングがサポートされません。

Marketing Cloud Connect での接続のテスト

次の手順を完了し、Marketing Cloud Connect の送信設定が適切であることを確認します。Marketing Cloud でメールを作成します。次に、このテスト用のリードとレポートを作成します。Sales Cloud の[メール送信]オブジェクトから、作成したリードとレポートを使用してメールを送信します。テストが完了したことを確認します。

ユーザーの管理

Marketing Cloud Connect のインストールと設定が完了したら、Marketing Cloud ユーザーと Sales Cloud または Service Cloud ユーザーを連携して、Marketing Cloud Connect へのアクセスを有効にします。

Marketing Cloud Connect の機能

Marketing Cloud Connect に関するエディションの互換性と使用できる機能について説明します。

表 1: Marketing Cloud のコネクタバージョン

コネクタバージョン	Marketing Cloud Connect
連携バージョンの注意事項	最新バージョン (以前は V5 と呼ばれていた) は、Salesforce Enterprise Edition 以上を使用するすべての Marketing Cloud ユーザーを対象としています。

表 2: サポートされる Marketing Cloud パッケージ





Marketing Cloud パッケージ	Marketing Cloud Connect
Basic	
Pro	
Corporate	
Enterprise	

表 3: サポートされる Marketing Cloud エディション

Marketing Cloud エディション (従来の用語)	Marketing Cloud Connect
Core	
Advanced	
Agency	
Enterprise 1.0 (ロック & パブリッシュ)	注意事項を参照
Enterprise 1.0 (代理人)	注意事項を参照
Enterprise 2.0	
Marketing Cloud Sandbox	


-  **メモ:** Enterprise 1.0 のロック & パブリッシュアカウントは、Marketing Cloud Connect との互換性を確保するためにコアアカウントとして機能します。Enterprise 1.0(代理人)はサポートされません。ユーザーは、レコード所有者から送信することで代理人使用事例をシミュレーションできます。レコード所有者はトラッキングを参照できます。

表 4: サポートされる Salesforce エディション

Salesforce エディション	Marketing Cloud Connect
Professional	-
Enterprise	
Performance	
Unlimited	
Salesforce Developer Edition Sandbox	



-  **メモ:** CloudForce.com および Lightning プラットフォーム組織はサポートされていません。管理パッケージが正常にインストールされるように、組織でカスタムプラットフォームイベントを有効にしてください。

表 5: サポートされるユーザーインターフェイス

ユーザーインターフェイス	Marketing Cloud Connect
Salesforce Classic	
Lightning Experience	注意事項を参照


-  **メモ:** Marketing Cloud Connect では Lightning Experience がサポートされていません。Salesforce で Lightning Experience を使用しているユーザーは、Marketing Cloud Connect タブをクリックすると自動的に Salesforce Classic にリダイレクトされます。

表 6: アカウント設定機能

アカウント設定	Marketing Cloud Connect
Salesforce でのビジネスユニットの管理	 (Enterprise 2.0)
トラッキングデータストレージオプションの管理	
返信先オプションの管理	

アカウント設定	Marketing Cloud Connect
購読者の表示オプションの管理	ユーザー別のスコープおよび ユーザー別のスコープなし
送信分類の管理	
接続アプリケーション認証	
複数組織設定	

表 7: 購読者機能

購読者	Marketing Cloud Connect
プロフィールセンター	 (メールのみ)
カスタムプロフィールセンター	Journey Builder ユーザーに推奨
購読センター	 (Marketing Cloud ベースの送信)
カスタム購読センター	推奨
Marketing Cloud 購読者ステータスソース	すべての購読者リスト
Marketing Cloud - CRM の購読者ステータスの同期	購読取り消し
購読者キー	
データエクステンションとデータリレーション	 (送信のみ)
同期済みデータエクステンション (Marketing Cloud に同期された CRM データ)	
連絡禁止リスト	
送信ロギング	
SmartCapture	カスタムサービスエンゲージメントが必要

表 8: メール内容機能

コンテンツ	Marketing Cloud Connect
動的コンテンツ	✓
パーソナライズ文字列	✓
メール送信プレビュー	✓ (静的と動的)
AMPscript	✓
メールの添付ファイル	✓ (AMPscript が必要)
Sender Authentication Package	✓
国際送信	✓
A/B テスト	✓

表 9: インタラクション機能

インタラクション	Marketing Cloud Connect
トリガーによるメール	✓
オートメーション	✓
自動インタラクション管理(AIM)- アクティビティやプログラム(レポート、クエリ、抽出、スケジュール)の親。	Marketing Cloud メールのみ (インポートと送信定義メール)
Distributed Sending	-

表 10: Journey Builder 連携機能

Journey Builder 連携	Marketing Cloud Connect
Salesforce エントリイベント	✓
カスタム Salesforce エントリイベント	✓

Journey Builder 連携	Marketing Cloud Connect
セールス/サービスアクティビティ	✓
カスタムセールス/サービスアクティビティ	✓

表 11 : Salesforce CRM 機能

Salesforce CRM のその他の機能	Marketing Cloud Connect
セグメンテーション/対象オーディエンス	キャンペーン/レポート
単一送信	リード/取引先責任者/個人取引先
Salesforce の除外	
Marketing Cloud の連絡禁止リスト	-
複数オーディエンス/除外	✓
送信メールテンプレートの表示	✓
グローバル再購読	✓
重複する購読者の削除 (重複除去)	✓
ユーザーレコード所有者または別名「から」の動的所有者送信	✓
送信分類	✓
Marketing Cloud から Salesforce レポートまたはキャンペーンへの送信	✓
Salesforce オブジェクトの対応付け: パーソナライズおよび動的コンテンツのサポート	✓
Salesforce オブジェクトの送信: 送信可能なカスタムオブジェクトおよびエンティティ	-
詳細なエラーの記録	✓
送信ロギング	✓
キャンペーンメンバー管理	✓
Marketing Cloud へのクイックリンク	✓

Salesforce CRM のその他の機能	Marketing Cloud Connect
Marketing Cloud メールエディターへのクイックリンク	✓
Salesforce モバイルアプリケーションアクセス	-

表 12: トラッキング機能

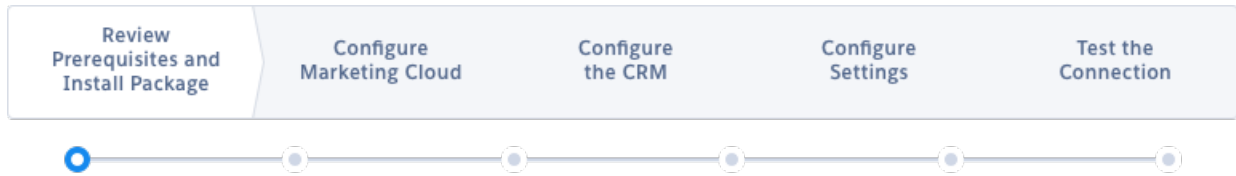
トラッキング	Marketing Cloud Connect
個別レベルおよび集計レベルでのトラッキングデータの表示 (送信、配信済み、ハードバウンス、ソフトバウンス、テクニカルバウンス、一意の開封数、合計開封数、一意のクリック数、合計クリック数、購読取り消しなど)	✓
個別レベルおよび集計レベルでのリンクレベルの詳細の表示 (メール名、送信日、開封日、クリック数、一意のクリック数など)	✓
トラッキングデータの定期更新またはスケジュール更新	✓
トラッキングデータのオンデマンド要求	✓
トラッキングの連絡禁止リスト	✓
	(ジョブごとまたはグローバルに設定可能)
グラフやレポートを使用したトラッキングデータの表示	✓
Journey Builder エンゲージメントデータ	✓

前提条件

Marketing Cloud 管理者と Sales Cloud または Service Cloud 管理者は、Marketing Cloud Connect をインストールする前に次の前提条件をレビューしてください。

- 製品機能をレビューして互換性とバージョンを把握します。
- Marketing Cloud Connect には、1 つの Marketing Cloud アカウントと 1 つ以上の Salesforce 組織とのリレーションシップが必要です。接続前に Marketing Cloud アカウントをプロビジョニングして Marketing Cloud Connect で使用できるようにする必要があります。

- Marketing Cloud Connect には購読者キーが必要です。Marketing Cloud アカウントで購読者キーが有効になっていない場合は、接続プロセスに進む前に購読者キーの移行を完了してください。
- Salesforce 組織で 4 つのカスタムタブを使用できることを確認します。
- ほとんどの Marketing Cloud Connect 機能を使用するには、ユーザーは Marketing Cloud ライセンスと Sales Cloud または Service Cloud ライセンスを持っている必要があります。



Marketing Cloud Connect のユーザーの種別と権限

Marketing Cloud と Sales Cloud または Service Cloud の管理者は、Marketing Cloud Connect に関連するユーザーの種別と権限について理解する必要があります。正しく設定するためには、これが非常に重要です。

Marketing Cloud Connect のほとんどの機能を使用するには、Marketing Cloud のライセンスおよび Sales Cloud か Service Cloud のライセンスがユーザーに必要です。Marketing Cloud Connect に関連するユーザー種別と権限を理解することが、設定のためには非常に重要であり、これについてはこのドキュメント全体で言及されています。

- Marketing Cloud 管理者

Marketing Cloud 管理者は、Marketing Cloud のアカウントとユーザーを設定します。この管理者は Salesforce CRM システム管理者と協力して、Marketing Cloud Connect をインストールして設定します。

- Salesforce CRM (Sales Cloud または Service Cloud) システム管理者

Sales Cloud または Service Cloud の管理者は、Salesforce CRM のアカウントとユーザーを設定します。この管理者は Marketing Cloud 管理者と協力して、Marketing Cloud Connect をインストールして設定します。

- Marketing Cloud Connect API ユーザー

Marketing Cloud Connect API ユーザーは、Sales Cloud か Service Cloud と Marketing Cloud との間でアカウントレベルの接続を完了します。可能であれば、専用システムユーザーを Marketing Cloud Connect API ユーザーとして使用します。Sales Cloud 組織または Service Cloud 組織を Marketing Cloud Enterprise 2.0 アカウントに接続している場合は、Marketing Cloud Connect API ユーザーのビジネスユニットが Marketing Cloud でどのようなアクセス権を持っているかにより、Sales Cloud または Service Cloud 内でどのビジネスユニットを使用できるかが決まります。

- Salesforce システムユーザー

以前はトラッキングユーザーと呼ばれていました。この Sales Cloud ユーザーまたは Service Cloud ユーザーは、Marketing Cloud と Sales Cloud または Service Cloud との間でアカウントレベルの接続を完了するために必要となります。このユーザーは、Marketing Cloud のトラッキングデータを CRM で使用できるようにするための主要メカニズムです。これは、「ユーザー別のスコープなし」アカウントで Marketing Cloud から CRM オーディエンスへの送信のためにのみ使用されます。可能であれば、専用システムユーザーを、ユーザーライセンスを消費する Salesforce システムユーザーとして使用します。

- Marketing Cloud Connect 管理者

このユーザーは、Marketing Cloud Connect の設定を Sales Cloud 内または Service Cloud 内で管理します。

- Marketing Cloud Connect ユーザー

このユーザーは、Sales Cloud か Service Cloud のいずれかまたは Marketing Cloud、あるいはその両方で Marketing Cloud Connect の機能にアクセスします。Sales Cloud または Service Cloud での Marketing Cloud Connect の機能へのアクセスは、CRM の権限とページレイアウトで管理します。Marketing Cloud で Marketing Cloud Connect のどの機能にアクセスできるかは、Marketing Cloud Connect の権限によって管理します。Marketing Cloud および Sales Cloud か Service Cloud の両方のライセンスが、最低でも必要です。

CRM の権限

Sales Cloud または Service Cloud で、すべての Marketing Cloud Connect ユーザーに次の権限を付与します。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、[設定] をクリックします。
2. [設定] メニューの [管理] で、[ユーザーの管理] をクリックします。
3. [ユーザー] をクリックします。
4. 次の設定でユーザーを作成するか、既存のユーザーを更新します。
 - a. ユーザーライセンス: Salesforce
 - b. プロファイル: システム管理者
5. Salesforce システムユーザーの [編集] をクリックします。
6. [Marketing Cloud for AppExchange 管理者] 権限セットを選択します。
7. [Marketing Cloud for AppExchange ユーザー] 権限セットを選択します。
8. [保存] をクリックします。

Sales Cloud または Service Cloud 内のプロファイルレベルで次の必須権限を付与します。これらの権限を付与すると、Marketing Cloud Connect 管理パッケージを使用して Marketing Cloud と Sales Cloud および Service Cloud の間に API ユーザーが作成されます。

システム管理者権限	一般ユーザー権限
API の有効化	ナレッジの参照を許可 (この権限はシステムによってデフォルトでオンに設定されます)
API 限定ユーザー	設定・定義を参照する
Chatter 内部ユーザー	レポートのエクスポート
パスワード無期限	レポートビルダー
レポートのスケジュール	レポート実行
ヘルプリンクを参照	
公開フォルダーのレポートを参照	

- Marketing Cloud for AppExchange **管理者権限**

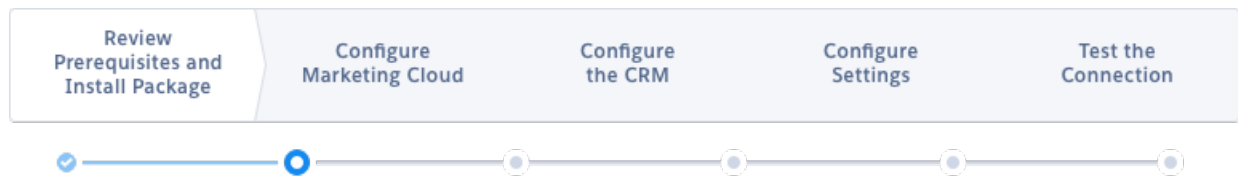
システム管理者は、この Salesforce CRM システム管理者権限により、すべてのデータを参照し、取引先責任者、リード、キャンペーン、レポートに送信を実行できるようになります。

- Marketing Cloud for AppExchange **ユーザー権限**

Salesforce CRM ユーザーは、この管理者以外の権限により、Marketing Cloud Connect インターフェイスにアクセスし、送信を実行できるようになります。アカウントを「ユーザー別のスコープ」として設定した場合、ユーザーは所有するレコードのみを表示して、それに対して送信を実行します。

- 接続アプリケーション認証の権限**

Salesforce CRM システム管理者は、Marketing Cloud Connect のインストールと設定を行う間に、この権限セットを作成します。この権限は、Marketing Cloud Connect のすべてのユーザーに割り当てます。接続アプリケーションにより、Marketing Cloud から Sales Cloud と Service Cloud へのすべてのクラウド間認証が管理されます。



ユーザーのデータアクセスに関するアカウント設定

Marketing Cloud Engagement 管理者と Sales Cloud または Service Cloud 管理者は、次のオプションを確認して Marketing Cloud Connect データを設定します。アカウントをユーザー別のスコープとユーザー別のスコープなしのどちらで設定するかを選択します。

Marketing Cloud Connect の次のオプションは、ユーザーのデータアクセスレベルを設定します。

- ユーザー別のスコープなし
- ユーザー別のスコープ

2つのアカウント設定オプションの重要な違いを理解することは、Marketing Cloud Connect のインストール後の使用方法を決定するために不可欠です。このオプションは Marketing Cloud Connect の設定プロセス中に選択し、Marketing Cloud Engagement Email Studio の [セットアップ] の [プラットフォームツール] > [アプリ] > [Salesforce 連携] でいつでも変更できます。

オプション 1: ユーザー別のスコープなし

このオプションは、Salesforce システムユーザー (通常はシステム管理者) に基づくデータアクセスを設定します。このオプションを選択すると、Marketing Cloud Connect ユーザーは Salesforce システムユーザーがアクセス可能なレポートまたはキャンペーンのすべての購読者に送信できます。購読者は、レポートを実行しているユーザーに基づいてフィルターされません。

例:

- 「私の取引先責任者」に基づいてレコードを作成しますが、Salesforce システムユーザーはそのレポートの取引先責任者にアクセスできません。レポートは空のため、「私の取引先責任者」には送信できません。

エラーメッセージは表示されませんが、後続のメール送信レポートに送信済み取引先責任者数が「0」と表示されます。

- 他のユーザーと共有されているレコードが含まれる既存のレポートにアクセスできます。そのレポートには自分のレコードのみが表示されます。表示されているレコードにのみ送信するつもりでそのレポートに送信したときに、気付かずに他の共有されているレコードに送信されてしまうことがあります。

考慮事項:

- Marketing Cloud Engagement 内では、レポートまたはキャンペーンリストは、送信を開始するユーザーに表示される内容に制限されません。
- Marketing Cloud Engagement 内では、返される購読者は、送信を開始するユーザーに表示される内容に制限されません。
- パスワードポリシーは無効で、パスワードが期限切れにならないため、この構成は簡単に管理できます。
- 管理者はパスワードを入力することなくユーザーを設定できます。
- そのユーザーには表示されないレポートまたはキャンペーンメンバーに気付かずに誤って送信してしまう可能性があります。
- この送信動作はv2アカウントのデフォルトであるため、Marketing Cloud Connectに移行する既存のv2ユーザーに適しています。

オプション 2: ユーザー別のスコープ

このオプションは、送信を開始する Marketing Cloud Connect ユーザーに基づくデータアクセスを設定します。ユーザーに表示されるレポートとキャンペーンは、送信の対象オーディエンスとして選択できます。返される購読者のリストは、送信を開始するユーザーに表示アクセス権があるものに制限されます。

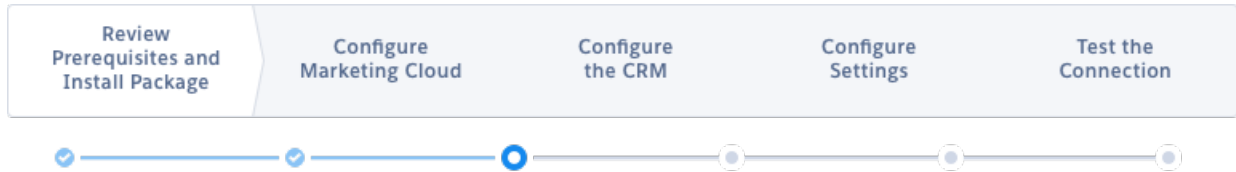
Salesforce データエクステンションのインポートアクティビティによる影響

インタラクションを使用して、Salesforce データエクステンションを Marketing Cloud Engagement にインポートします。インポートアクティビティは、アクセス権のある Sales Cloud または Service Cloud のレポートでのみ作成します。たとえば、Sales Cloud または Service Cloud の Marketing Cloud Engagement 管理者フォルダーにあるレポートは、Marketing Cloud Engagement でそのフォルダーにアクセスできない場合は使用できません。

手動インポートと自動インポートは、ユーザー別のスコープアカウントでは異なって動作します。

- ユーザー別のスコープは、Salesforce データイベント、Journey Builder の Sales Cloud と Service Cloud のアクティビティ、同期したデータソースで返されるデータおよびオブジェクトに影響しません。
- 手動インポートアクティビティにはスコープが適用されるため、レポートに表示されるレコード数はインポートを実行するユーザーによって異なります。
- すべての自動インポートアクティビティは、Marketing Cloud Engagement API ユーザーとして実行されます。したがって、レコード数にはデータに対する Salesforce システムユーザーのアクセスレベルが反映されます。

ユーザー別のスコープなしアカウントでは、インポートは Salesforce システムユーザーのデータアクセス権に基づいて結果を返します。



Marketing Cloud Connect 管理パッケージのインストール

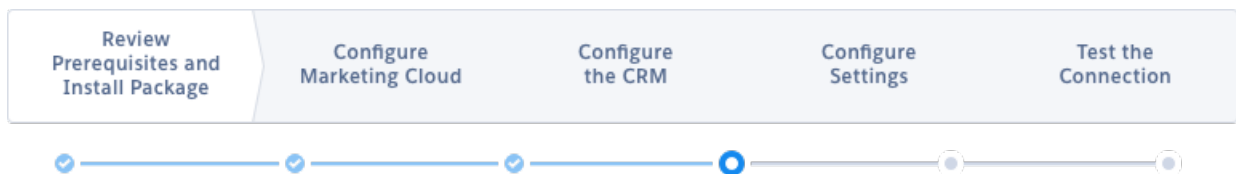
SalesCloud または ServiceCloud 管理者は、次の手順を確認して Marketing Cloud Connect 管理パッケージをインストールします。

💡 ヒント: インストールプロセスを開始する前にすべての前提条件情報を確認してください。

1. サポートされている Web ブラウザーの最新バージョンをインストールします。
2. 次の URL をブラウザに貼り付けます。この URL は、最新の管理パッケージバージョンにリダイレクトします。システム管理者の資格情報を使用して Salesforce にログインするように求められます。
 - a. 本番組織: <https://sfdc.co/MCC>
 - b. Sandbox 組織: <https://sfdc.co/MCCSandbox>

❗ 重要: 管理パッケージが正常にインストールされるように、組織でカスタムプラットフォームイベントを有効にしてください。Marketing Cloud Connect をアップグレードする場合、最新の管理パッケージをインストールする前に [こちらの考慮事項を確認](#) してください。

3. ログイン後に、どのユーザー用にパッケージをインストールするのかを選択します。
4. [インストール] をクリックします。
5. それらのサードパーティ Web サイトにアクセス権を付与するように促されたら、アクセス権を付与します。
6. [続行] をクリックします。



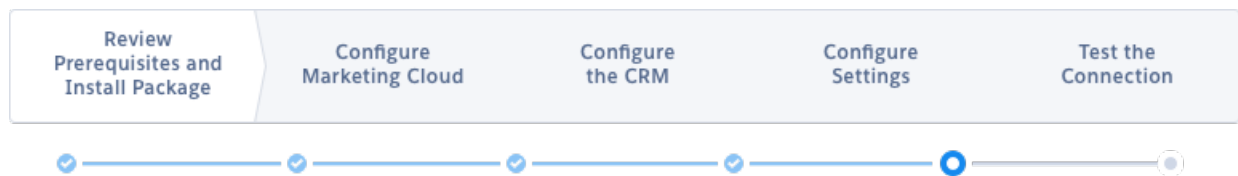
Marketing Cloud Connect での管理者権限の適用

Marketing Engagement 向け Marketing Cloud Connect 管理者ユーザーに管理者権限を適用します。これらの権限により、Sales Cloud または Service Cloud 管理者が Marketing Cloud Connect を設定できます。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、[設定] をクリックします。
2. [セットアップ] メニューの [ビルド] で、[カスタマイズ] をクリックします。
3. [ユーザー] をクリックします。
4. [ページレイアウト] をクリックします。

5. ユーザーページレイアウトを編集します。
6. [Marketing Cloud for AppExchange ユーザー] 項目を追加します。
7. [Marketing Cloud for AppExchange 管理者] 項目を追加します。
8. ユーザーレイアウトの変更を保存します。
9. [設定] メニューの [管理] で、[ユーザーの管理] をクリックします。
10. [ユーザー] をクリックします。
11. Salesforce CRM システム管理者ユーザーを編集します。
12. [Marketing Cloud for AppExchange ユーザー] を有効にします。
13. [Marketing Cloud for AppExchange 管理者] を有効にします。
14. ユーザーの変更を保存します。

最新の情報は、こちらの「[Trailhead: Customize Record Details with Page Layouts \(Trailhead: ページレイアウトを使用したレコードの詳細のカスタマイズ\)](#)」を参照してください。



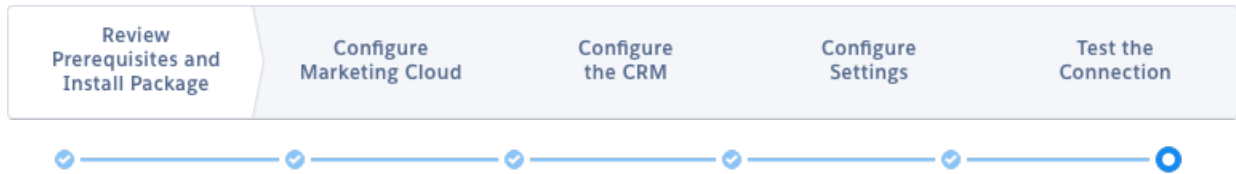
Marketing Cloud Connect での Salesforce システムユーザーの設定

Sales Cloud または Service Cloud 管理者は Salesforce システムユーザーを作成します。このユーザーは Marketing Cloud Connect 設定用のアカウントを接続します。

Salesforce システムユーザー (以前はトラッキングユーザーと呼ばれていた) は Marketing Cloud トラッキングデータを CRM で使用できるようにします。これは、「ユーザー別のスコープなし」アカウントで Marketing Cloud から CRM オーディエンスへの送信のためにのみ使用されます。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、[設定] をクリックします。
2. [設定] メニューの [管理] で、[ユーザーの管理] をクリックします。
3. [ユーザー] をクリックします。
4. 次の設定でユーザーを作成するか、既存のユーザーを更新します。
 - ユーザーライセンス: Salesforce
 - プロファイル: システム管理者
5. ユーザーを保存します。
6. Salesforce システムユーザーを編集します。
7. [システム管理者] プロファイルをユーザーに割り当てます。
8. [Marketing Cloud for AppExchange 管理者] を選択します。
9. [Marketing Cloud for AppExchange ユーザー] を選択します。

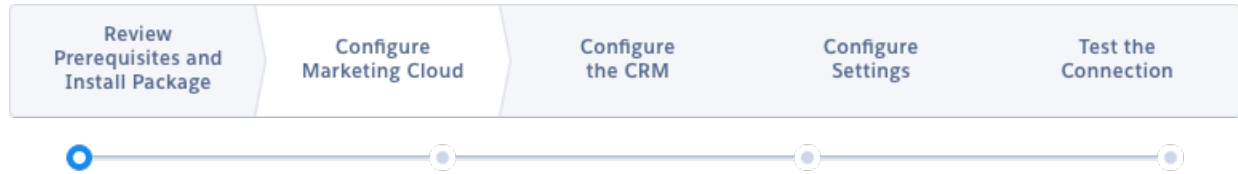
10. ユーザーを保存します。



Marketing Cloud Connect を使用したアカウントの接続

Marketing Cloud アカウントを対応する Sales Cloud または Service Cloud 組織にアカウントレベルで接続し、Marketing Cloud Connect の設定を続行します。

- ✔ **メモ:** CRM の設定プロセス中に残りの認証設定ステップを完了し、接続アプリケーションが適切に設定されていることを確認します。
- 1. Salesforce システムユーザーアカウントを使用して、Marketing Cloud に接続する Sales Cloud または Service Cloud 組織にログインします。
 - ✔ **メモ:** このプロセス中、システムが自動的にアクティブな Salesforce セッションに接続します。誤った接続を避けるため、このプロセスで使用される Salesforce システムユーザーセッション以外のアクティブな Sales Cloud または Service Cloud セッションからログアウトします。タブを閉じていてもアクティブセッションは終了しません。
- 2. 別のタブで Marketing Cloud にログインします。
- 3. [Email Studio] に移動します。
- 4. [管理者] をクリックします。
- 5. [Salesforce 連携] をクリックします。
- 6. [編集] をクリックします。
- 7. データアクセス設定で該当する場合は、[ユーザー別のスコープ] を選択します。
- 8. 応答画面が表示されたら、[接続アプリケーションにアップグレード] をクリックします。
- 9. [アカウントの接続] をクリックします。
- 10. 別のタブで Salesforce システムユーザーとして Sales Cloud または Service Cloud にログインしていない場合、ログインが要求されます。[OK] をクリックしてシステムユーザーとしてログインします。
 - ✔ **メモ:** 会社固有のログイン URL (<https://mycompany.my.salesforce.com> など) を使用している場合は、Salesforce システムユーザーの資格情報を入力する前に、[カスタムドメインを使用] を選択してそのドメインアドレスを入力します。
- 11. [許可] をクリックし、Salesforce システムユーザーに Marketing Cloud アカウントへのアクセスを許可します。



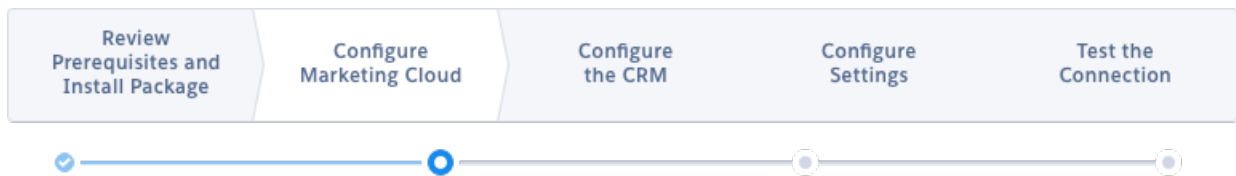
Marketing Cloud Connect での Marketing Cloud API ユーザーの作成

Marketing Cloud Connect で Marketing Cloud API ユーザーを作成します。

Marketing Cloud Connect 設定で Salesforce システムユーザーに接続する [Marketing Cloud API ユーザー](#) (通常は一意のユーザー)を作成します。

1. Marketing Cloud で、[Email Studio]に移動します。
2. [管理者]をクリックします。
3. [マイユーザー]をクリックします。
4. [作成]をクリックします。
5. 簡単に識別できるようにユーザーに名前を付けます。
6. [返信用メールアドレス]と[通知用メールアドレス]にメールアドレスを入力します。
7. 一意のユーザー名を入力します。
8. 組織で必要な場合を除き、[外部ID]フィールドは空白のままにします。
9. タイムゾーンを設定します。
10. カルチャーコードを設定します。
11. [APIユーザー]を選択します。
12. 一時パスワードを作成します。
13. Enterprise 2.0 以外のアカウントを使用している場合、このページで次のロールと権限を設定します。
 - ユーザー権限: なし
 - Marketing Cloud 権限とロール: なし
 - メールアプリケーション: 選択
 - **Mobile Connect: 選択** (該当する場合)
 - **[Marketing Cloud 管理者] ロール: 選択**
14. 新しい Marketing Cloud API ユーザーを保存します。
 - 📌 **メモ:** Enterprise 2.0 アカウントを使用している場合、引き続きロールと権限を設定します。
15. Email Studio の [管理者] から [マイユーザー]をクリックします。
16. [Marketing Cloud API ユーザー]を選択します。
17. [ロールの管理]をクリックします。
18. [ロールの編集]をクリックします。

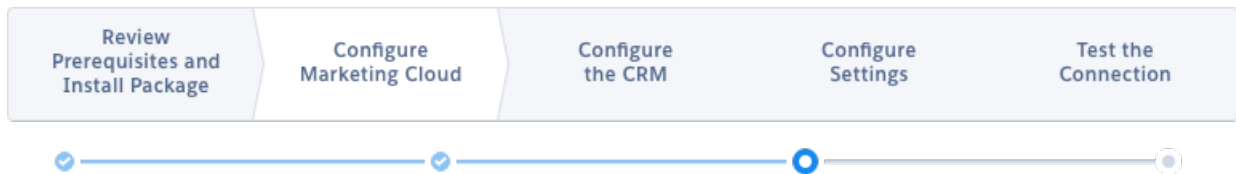
19. 管理者および Marketing Cloud 管理者ロールを割り当てます。
20. Marketing Cloud API ユーザーのロールを保存します。



Marketing Cloud Connect での Marketing Cloud API ユーザーの接続

Marketing Cloud API ユーザーを Salesforce システムユーザーに接続し、Marketing Cloud Connect でコアシステムの通信アクティビティを可能にします。これらのアクティビティには、Marketing Cloud から Sales Cloud または Service Cloud へのトラッキングデータの転送が含まれます。

1. Marketing Cloud で、[Email Studio] に移動します。
2. [管理者] をクリックします。
3. [アカウント設定] を展開し、[マイユーザー] をクリックします。
4. API ユーザーを選択します。
5. [Salesforce.com ステータス] の [連携] をクリックします。
6. Salesforce システムユーザーのユーザー名を入力します。
7. 設定を保存します。
8. 接続に成功した場合、[Salesforce.com ステータス] 項目が [連携済み] に更新されます。




ビジネスユニットの割り当て

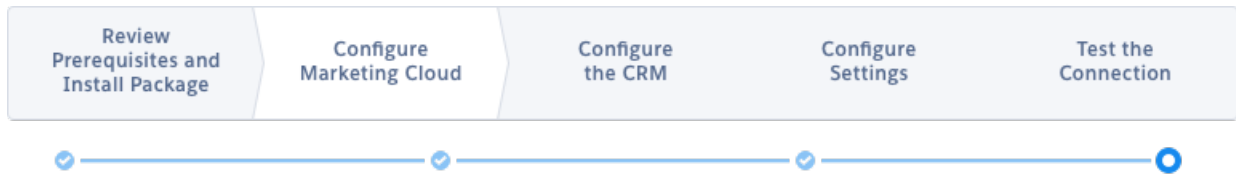
Marketing Cloud Engagement Enterprise 2.0 アカウントの場合、該当するビジネスユニットを Marketing Cloud Engagement API ユーザーに割り当てます。Marketing Cloud Engagement での Marketing Cloud Connect API ユーザーのビジネスユニットアクセス権によって、Sales Cloud または Service Cloud 内で使用できるビジネスユニットが決まります。

メモ: Marketing Cloud Engagement アカウントが Enterprise 2.0 でない場合は、次のトピックに進んでください。所有するアカウントの種別が不明な場合は、Marketing Cloud Engagement エディションを確認してアカウント種別を調べるか、アカウントの担当者にお問い合わせください。

1. Marketing Cloud Engagement で、[Email Studio] に移動します。
2. [管理者] をクリックします。
3. [マイユーザー] をクリックします。

4. Marketing Cloud Engagement API ユーザーを選択します。
5. [ユーザー] テーブルの上部にある [ビジネスユニットの管理] をクリックします。
6. [デフォルトのビジネスユニット] で最上位のビジネスユニットが選択されていることを確認します。
7. [関連付けられたビジネスユニット] セクションで、Marketing Cloud Connect で使用されるすべてのビジネスユニットを選択します。
8. Marketing Cloud Engagement API ユーザーへの変更を保存します。

 **メモ:** 今後 Marketing Cloud Connect で使用するビジネスユニットを作成する場合、このプロセスを繰り返します。



認証の設定

次のタスクを完了し、Marketing Cloud Connect の接続アプリケーション認証を設定します。

このメカニズムを使用して Sales Cloud、Service Cloud、Marketing Cloud 間の認証を行います。Sales Cloud または Service Cloud のパスワードを Marketing Cloud に保存する必要はありません。また、Marketing Cloud Connect によって行われた SOAP および REST API 呼び出しは直近の 24 時間制限の対象にはなりません。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、[設定] をクリックします。
2. [管理] で、[アプリケーションを管理する] をクリックします。
3. [接続アプリケーション] をクリックします。
4. [Salesforce Marketing Cloud] をクリックします。
5. [ポリシーを編集] をクリックします。
6. [許可されているユーザー] で、[管理者が承認したユーザーは事前承認済み] をクリックします。
7. 警告メッセージが表示された場合、[OK] をクリックします。
8. [IP 制限の緩和] で、[IP 制限の緩和] を選択します。
9. [更新トークンポリシー] で、[更新トークンを直ちに期限切れにする] を選択します。
10. 変更を保存します。
11. [設定] の [管理] で [ユーザーの管理] をクリックします。
12. [権限セット] をクリックします。
13. [新規] をクリックします。
14. 権限セットに覚えやすい名前を指定します。例: Marketing Cloud 接続アプリケーション
15. 生成された API 参照名を検証し、このフィールドに目的の値が含まれることを確認します。
16. 権限セットを保存します。

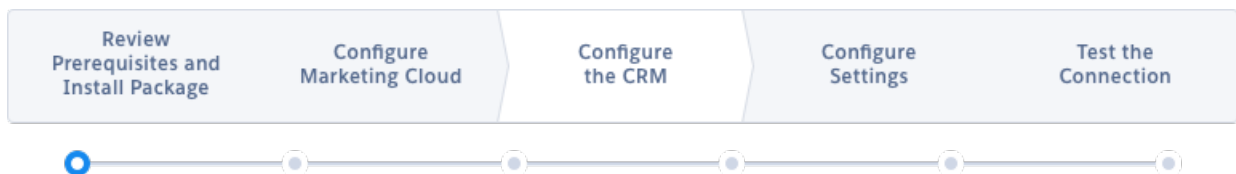
権限セットを API ユーザー (Marketing Cloud 接続アプリケーション、Marketing Cloud Connector、Marketing Cloud Connector 管理者、Marketing Cloud システムユーザー) に適用します。

17. [設定] の [管理] で [ユーザーの管理] をクリックします。
18. [権限セット] をクリックします。
19. 新しく作成した権限の名前をクリックします。
20. [割り当ての管理] をクリックします。
21. [割り当てを追加] をクリックします。
22. 接続アプリケーションにアクセスする必要があるユーザーを選択します。通常、MarketingCloudConnect にアクセスするユーザーです。
23. Salesforce システムユーザーがアクセス目的で選択されていることを確認します。
24. [割り当て] をクリックします。
25. [完了] をクリックします。
26. Sales Cloud または Service Cloud で、[設定] をクリックします。
27. [管理] で、[アプリケーションを管理する] をクリックします。
28. [接続アプリケーション] をクリックします。
29. [Salesforce Marketing Cloud] をクリックします。
30. [権限セットの管理] をクリックします。
31. 新しく作成した権限セットを選択します。
32. 変更を保存します。



警告: このプロセス中にシステムはすべてのアクティブな Marketing Cloud セッションに自動的に接続し、Marketing Cloud Connect API ユーザーを確立します。誤った接続を回避するには、すべてのアクティブな Marketing Cloud セッションからログアウトします。タブを閉じて、アクティブセッションは終了しません。


33. Sales Cloud または Service Cloud で、[Marketing Cloud] タブに移動します。
Salesforce サポートと連携し、かつ Marketing Cloud 本番サポート環境を使用している場合、[詳細設定] をクリックし、[Marketing Cloud 環境] リストから [Sandbox] を選択します。
34. [Marketing Cloud に接続] をクリックします。
35. Marketing Cloud Connect API ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
36. [ログイン] をクリックします。



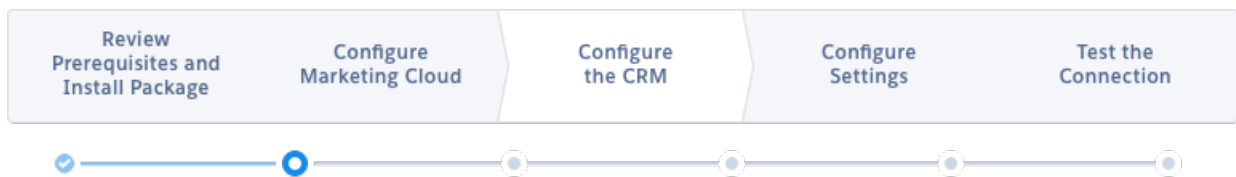
デフォルトのワークフローユーザーの指定

Marketing Cloud Connect の CRM 設定でデフォルトのワークフローユーザーを指定する手順を実行します。

Marketing Cloud Connect で使用される時間ベースのワークフローでは、デフォルトのワークフローユーザーが必要です。このユーザー名は、ルールをトリガーしたユーザーが有効でない場合に表示されます。

 **メモ:** すでに時間ベースのワークフローが使用されていて、Salesforce 組織でデフォルトのワークフローユーザーが指定されている場合は、このタスクをスキップしてください。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、[設定] をクリックします。
2. [ビルド] で、[作成] をクリックします。
3. [ワークフローと承認申請] をクリックします。
4. [プロセスの自動化設定] をクリックします。
5. ルックアップを使用して該当するユーザーを選択し、デフォルトのワークフローユーザーを指定します。
6. デフォルトのワークフローユーザーを保存します。



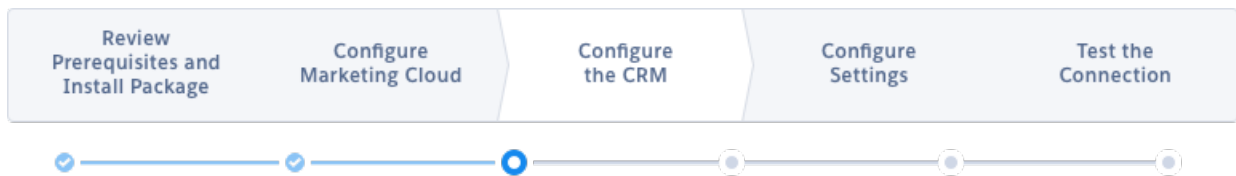
項目レベルセキュリティの更新

項目レベルセキュリティを変更し、リードと取引先責任者にメール送信除外フィールドを表示してください。

Marketing Cloud Connect によって Marketing Cloud メールを送信する場合は、このようにする必要があります。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、[設定] に移動します。
2. [ビルド] の [カスタマイズ] をクリックします。
3. [取引先責任者] をクリックします。
4. [項目] をクリックします。
5. [メール送信除外] をクリックします。
6. [項目レベルセキュリティの設定] をクリックします。
7. 該当するすべてのプロファイルで表示を有効にします。
8. 保存します。
9. [セットアップ] メニューの [ビルド] の [カスタマイズ] をクリックします。
10. [リード] をクリックします。
11. [項目] をクリックします。
12. [メール送信除外] をクリックします。
13. [項目レベルセキュリティの設定] をクリックします。

14. 該当するすべてのプロファイルで表示を有効にします。
15. 保存します。




ページレイアウトの更新

メールとモバイルの送信トラッキングを取引先責任者ページとリードページに追加して、Sales Cloud と Service Cloud の Marketing Cloud Connect 用の設定を続けてください。

Sales Cloud または Service Cloud の管理者はこのタスクを実行して、取引先責任者とリードのページレイアウトを更新し、Marketing Cloud Connect 機能を組み込みます。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、[設定]に移動します。
2. [ビルド]の[カスタマイズ]をクリックします。
3. [取引先責任者]をクリックします。
4. [ページレイアウト]をクリックします。
5. 該当するページレイアウトを選択します。
6. Visualforce ページセクションから [ContactActions] を追加します。
7. 関連リストセクションから [メール送信] を追加します。
8. 関連リストセクションから [個別のメールの結果] を追加します。
9. 保存しますが、タブは閉じません。
10. ユーザーの関連リストのカスタマイズを上書きするように求められたら、[はい]をクリックします。
11. [セットアップ]メニューで [ビルド]の[カスタマイズ]をクリックします。
12. [リード]をクリックします。
13. [ページレイアウト]をクリックします。
14. Visualforce ページセクションから [LeadActions] を追加します。
15. 関連リストセクションから [メール送信] を追加します。
16. 関連リストセクションから [個別のメールの結果] を追加します。
17. 保存しますが、タブは閉じません。
18. ユーザーの関連リストのカスタマイズを上書きするように求められたら、[はい]をクリックします。
19. 必要に応じて、目的のページレイアウトにこの手順を繰り返します。

 **メモ:** Marketing Cloud Connect 管理パッケージには次のページレイアウト要素が含まれていますが、これらはもう必要なく、必要に応じて削除できます。

- @廃止/et4ae5.Default_MID

- @廃止/et4ae5.ExactTarget_OAuth_Token
- デフォルトの Marketing Cloud ページ/et4ae5.Default_ET_Page
- Marketing Cloud ユーザー名/et4ae5.ExactTargetUsername
- 有効な Marketing Cloud 管理者/et4ae5.ExactTargetAdmin
- 有効な Marketing Cloud ユーザー/et4ae5.ExactTargetUser



設定ウィザードの起動

Sales Cloud または Service Cloud で Marketing Cloud Connect を設定するには、Salesforce Classic UI で設定ウィザードを起動します。

このプロセスでは、設定ウィザードを起動して、必要な IP アドレスの許可リストへの追加、必要なワークフローの作成、新しい権限セットの設定を自動的行います。

重要: Lightning Experience では設定ウィザードはサポートされません。

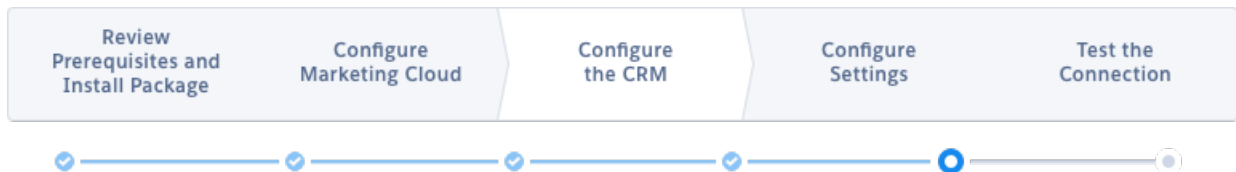
メモ: 設定ウィザードを使用するのにカスタムドメインは必要ありません。ただし、設定ウィザードを使用しない場合は、手動で IP アドレスを許可リストに追加して、ワークフローを作成します。

1. Sales Cloud または Service Cloud の [設定] メニューの [管理] で、[セキュリティのコントロール] をクリックします。
2. [セッションの設定] をクリックします。
3. 何も変更せずに保存します。
4. Sales Cloud または Service Cloud で、[Marketing Cloud] タブに移動します。
5. メタデータ API リモートサイトを検証することに同意します。
6. 自動設定ウィザードが起動します。
7. インストール前のタスクが完了していることを確認します。
8. 利用規約に同意します。
9. 設定ウィザードを実行するには、[Marketing Cloud Connect の設定] をクリックします。
10. ウィザードが完了したら [OK] をクリックします。

メモ: メタデータ API リモートサイトを自動的に検証できなかった場合、次の手順を実行して手動でリモートサイトをインストールします。

11. Sales Cloud または Service Cloud の [設定] メニューの [管理] で、[セキュリティのコントロール] をクリックします。
12. [リモートサイトの設定] をクリックします。


13. [新規リモートサイト] をクリックします。
14. 次の情報を使用して新しいリモートサイトを編集します。
 - リモートサイト名: MetadataAPI
 - リモートサイトの URL: https://{domain}.salesforce.com
 - 説明: Remote site setting to make callouts (コールアウトを実行するリモートサイト設定)
15. リモートサイトを保存します。



Marketing Cloud への接続

Sales Cloud または Service Cloud 管理者は、Marketing Cloud API ユーザーの資格情報を使用して Sales Cloud または Service Cloud アカウントを Marketing Cloud アカウントと接続します。このタスクでは、Marketing Cloud Connect のアカウントレベルの接続を完了します。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、[Marketing Cloud] タブに移動します。
2. [詳細設定を表示] をクリックします。
3. [テナント固有の OAuth エンドポイント] を有効化します。

 **メモ:** [テナント固有の OAuth エンドポイント] を有効化すると、[Marketing Cloud Connector 設定] は削除されます。再連携する場合は、有効化する前に設定を記録してください。

4. Marketing Cloud Connect API ユーザーの資格情報を入力します。
5. [接続] をクリックしてアカウントを接続します。

これで、Marketing Cloud Connect の設定を管理し、接続をテストして設定を完了できます。



Marketing Cloud Connector 設定の管理


システム管理者は、Sales Cloud または Service Cloud で Marketing Cloud オブジェクトに移動し、Marketing Cloud Connect 設定および送信構成にアクセスします。システム管理者は、インストールおよび設定プロセスの後で次の設定 (送信、トラッキング、ユーザー、ビジネスユニットなど) を指定し、Marketing Cloud Connect を介した送信を有効にできます。設定はいつでも編集できます。

項目	説明
ユーザー名	アカウントを接続する Marketing Cloud API ユーザーのユーザー名。
Marketing Cloud 種別	Marketing Cloud のエディション種別。
送信の種類	Marketing Cloud Connect で使用できる送信の種類。ユーザーの送信が有効になっていることを確認するには、メールを選択する必要があります。
代替返信先オプション	名前とメールアドレスの設定可能なリストから、返信先を選択できるようになります。代替返信先オプションが機能するには、Marketing Cloud で返信メール管理が有効になっていて、設定されている必要があります。
Marketing Cloud ディープリンクアクセス	これらの [編集]、[新規メール]、および [Marketing Cloud に移動] リンクを使用すると、ユーザーは自動的に Marketing Cloud にログインしてそれらの機能を実行できます。この設定を使用して、Marketing Cloud Connector インストール内のこれらのディープリンクの使用を制限します。
対象オーディエンス	送信で選択できる受信者種別。Marketing Cloud Connect を介した送信を有効にするレポートまたはキャンペーンを選択します。送信できるのは有効なキャンペーンのみです。ユーザー別のスコープ設定では、これらに送信する目的のレポートが含まれるフォルダーへのアクセス権が必要です。
除外オーディエンス	対象オーディエンスから除外できるオーディエンス種別。
失敗した送信を再試行	このオプションを選択すると、システムが一時的に使用できない場合に送信が再試行されます。送信の再試行を回避するために送信をキャンセルするオプションが提供されます。再試行は、サポートチケット受信者がこの設定ページに追加されている場合にのみ使用できます。
私の非公開カスタムレポート	このオプションを有効にすると、[私の非公開カスタムレポート] フォルダーに保存されているレポートに送信できます。システム管理者にはこのフォルダーへのアクセス権がないため、このオプションはユーザー別のスコープアカウント設定でのみ使用できます。
制限	Marketing Cloud Connect のトリガーによる送信の目的の制限レベル(管理者のみまたは管理者とユーザー)を選

項目	説明
	択します。この制限は、トリガーによる送信の管理にのみ適用され、送信には適用されません。
有効なオブジェクト	Marketing Cloud Connector 内でトリガーによる送信を作成できるオブジェクトのリストを設定します。
サポートチケット受信者	Marketing Cloud Connect に関する問題の通知を取得する会社の Salesforce サポートリソースのメールアドレスを設定します。
ログ	このオプションを選択すると、すべてのパッケージ関連の API 呼び出しおよび関連付けられた詳細の記録が開始されます。ログは有効化されてから 60 分後に無効になります。ログが有効になると、[ログの開始] ボタンがハイパーリンクになり、ドキュメントオブジェクトにリンクします。[ドキュメント] で、[Marketing Cloud Documents] を選択します。
トラッキングの詳細	Marketing Cloud から Sales Cloud または Service Cloud に返されるトラッキングデータの目的のレベルを選択します。
トラッキング頻度	トラッキングデータの目的の更新頻度を設定します。[1 時間ごと] をお勧めします。
トラッキングされた日数	送信後にトラッキングデータが Sales Cloud または Service Cloud に返されるまでの日数 (最大 365 日) を設定します。この期間を過ぎると、トラッキングデータは Salesforce に保持されます。[90 日間] をお勧めします。
キャンペーンメンバーのトラッキング	トラッキングデータに基づいてキャンペーンメンバーの状況を設定できます。
(詳細設定) テナント固有の OAuth エンドポイント	テナント固有の OAuth エンドポイントを有効化します。または、汎用的なエンドポイントを使用する場合は削除します。このエンドポイントを使用して、連携のセキュリティインタラクションを有効にして、認証のサービスの中断を防止します。


ビジネスユニットの管理

Marketing Cloud Connect 管理者がクラウド間で Marketing Cloud Enterprise 2.0 アカウントのビジネスユニットをマップして Marketing Cloud Connect で使用できるようにするには、次の手順に従います。所有するアカウントの種別が不明な場合は、詳細は、Marketing Cloud エディションを確認してください。

 **メモ:** インストールと設定を行う前に、Marketing Cloud API ユーザーが次の項目にアクセスできることを確認してください。

- 最上位のデフォルト親ビジネスユニット。
- Marketing Cloud Connect を介した送信が有効なすべてのビジネスユニット。


1. Sales Cloud または Service Cloud で、[Marketing Cloud] タブに移動します。
2. [Marketing Cloud Connector の設定] をクリックします。
3. [ビジネスユニットの管理] をクリックします。
4. 有効にするビジネスユニットを選択します。
5. 選択を保存します。

 **メモ:** このページは 4,000 件のビジネスユニットのみをサポートしています。4,000 件を超える場合は、その数に対応できるカスタムソリューションとしてビジネスユニットタブを作成します。最大5件のビジネスユニットに1つの連携ユーザーを使用できます。


属性項目のマッピング

コミュニケーションをパーソナライズするには、Marketing Cloud 内で Sales Cloud の取引先責任者、リード、取引先オブジェクトをマッピングして、属性をクラウド間で共有し、Marketing Cloud Connect コミュニケーションのパーソナライズを有効にします。複数組織では、Web コレクトまたはカスタムフィールドと属性のマッピングがサポートされません。

1. Marketing Cloud で、[Email Studio] に移動します。
2. [購読者] をクリックします。
3. [プロフィール管理] をクリックします。
4. 既存の属性を選択するか、新しい属性を作成します。
5. [新しい属性プロパティ] ウィンドウで、属性プロパティ内の [Salesforce] タブをクリックします。

 **メモ:** [Salesforce] タブは、Marketing Cloud Connect を使用して Marketing Cloud アカウントをすでに Sales Cloud または Service Cloud 組織に接続している場合にのみ使用できます。

6. 属性をマッピングするには、フィールドを選択します。

 **メモ:** プロファイル属性の最大長が、Salesforce オブジェクトの最大長と一致している必要があります。長さが一致していない場合、トリガーによる送信や Journey Builder の送信でエラーが生じる可能性があります。

7. 各属性を Sales Cloud または Service Cloud の項目に繰り返しマッピングします。

Marketing Cloud Connect での接続のテスト

次の手順を完了し、Marketing Cloud Connect の送信設定が適切であることを確認します。Marketing Cloud でメールを作成します。次に、このテスト用のリードとレポートを作成します。Sales Cloud の [メール送信] オブジェクトから、作成したリードとレポートを使用してメールを送信します。テストが完了したことを確認します。

このテストを実行する前に、Marketing Cloud で [フィールド属性をマップ](#) (ページ 27) して、Marketing Cloud Connect 設定が構成されていることを確認します。

1. このテスト用のメールを作成するには、Marketing Cloud で [Email Studio] に移動します。

2. [コンテンツ] をクリックし、メールを作成します。次に例を示します。

```
Sent to: %%emailaddr%% <br> JobID: %%jobid%% <br> <table cellpadding="2"
cellspacing="0" width="600" ID="Table5" Border=0><tr><td><font face="verdana" size="1"
color="#444444">This email was sent by: <b>%%Member_Busname%%</b><br>%%Member_Addr%%
%%Member_City%%, %%Member_State%%, %%Member_PostalCode%%,
%%Member_Country%%<br><br></font></td></tr></table> %%jobid%%<br><br> <a
href="%%unsubscribe_center_url%%" alias="Unsubscribe">Unsubscribe</a> <custom
name="opencounter" type="tracking">
```

3. [テキストのみ] オプションを選択します。

4. メールに名前を付けて、[次へ] をクリックします。

5. 「*Integration Test*」 (連携テスト) のように件名行を入力します。

6. フィールドマッピングとパーソナライズをテストするには、マップしたプロファイル属性とシステム属性を入力します。

7. システムのスニペット ([住所 (必須)]、[プロファイルセンター (必須)]、[友人に転送]) を選択します。

8. メールを保存します。

9. このテスト用のリードとレポートを作成するには、Sales Cloud で [リード] オブジェクトに移動します。

10. 自分の名前、メールアドレス、郵便番号でリードを作成します。

11. [レポート] オブジェクトに移動します。

12. 自分のリードレコードのみを表示するレポートを作成します。レポートに取引先責任者 ID またはリード ID を含めます。たとえば、姓 = 自分の姓、郵便番号 = 自分の郵便番号と設定して、リードレポートを作成します。

13. レポートを Marketing Cloud 管理者レポートフォルダーに保存します。

14. 「ユーザー別のスコープなし」としてアカウントが設定されている場合、すべてのリードを表示するようにレポートを絞り込みます。

15. メールを送信して接続をテストするには、[Marketing Cloud] オブジェクトに移動します。

16. このテスト用に作成したメールを選択し、[検索] をクリックします。


17. [受信者] に [レポート] を選択し、このテスト用に作成したレポートを検索します。

18. 送信者メールアドレスリストから自分のメールアドレスを選択します。

19. これらのユーザーがすべてオプトインしていることを確認します。

20. メールを送信します。

21. Sales Cloud でテストを検証するには、[メール送信] オブジェクトに移動します。

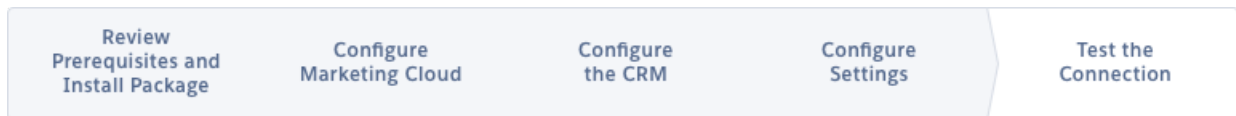
 **メモ:** テスト送信は、完了するまで最大 60 分かかります。

22. [最近参照したデータ] リストで、テスト送信に対応するメール送信番号をクリックします。

23. 送信が完了したことを確認するには、メールのステータスをチェックします。


24. 受信したテストメールをチェックして、パーソナライズした内容が適切に入力されていることを確認します。

前のトピック: [設定](#)



ユーザーの管理

Marketing Cloud Connect のインストールと設定が完了したら、Marketing Cloud ユーザーと Sales Cloud または Service Cloud ユーザーを連携して、Marketing Cloud Connect へのアクセスを有効にします。


 **メモ:** Marketing Cloud Connect の大部分の機能を使用するには、Marketing Cloud Connect ユーザーに Marketing Cloud のライセンスと Salesforce CRM のライセンスが必要です。

Enterprise 2.0 Marketing Cloud アカウント

Marketing Cloud 管理者は、次のプロセスを実行して、Enterprise 2.0 Marketing Cloud アカウントで Marketing Cloud Connect ユーザーを設定します。

1. Marketing Cloud で、[Email Studio] に移動します。
2. [管理者] をクリックします。
3. [マイユーザー] をクリックします。
4. 接続するユーザーを選択します。
5. [Salesforce.com ステータス] の [連携] をクリックします。
6. Sales Cloud または Service Cloud のユーザー名を入力します。
7. 設定を保存します。
8. [マイユーザー] から、このユーザーを選択します。
9. [ロールの管理] をクリックします。
10. 該当するビジネスユニットを選択します。
11. [ロールの編集] をクリックします。
12. Marketing Cloud Connect を介した送信に必要な次の最小権限を選択します。
 - コンテンツ作成者
 - データ管理者

- **Marketing Cloud コンテンツエディター/パブリッシャー**

 **メモ:** 接続された Salesforce 組織から送信する必要があるユーザーの [メール] > [連携] 権限を許可することもできます。

13. ロールを保存します。

他のすべての Marketing Cloud アカウント

Marketing Cloud 管理者は、次のプロセスを実行して、Enterprise 2.0 以外のすべての Marketing Cloud アカウントで Marketing Cloud Connect ユーザーを設定します。

1. Marketing Cloud で、[Email Studio] に移動します。
2. [管理者] をクリックします。
3. [アカウント設定] をクリックします。
4. [マイユーザー] をクリックします。
5. 該当するユーザーをクリックします。
6. [Salesforce.com ステータス] の [連携] をクリックします。
7. Sales Cloud または Service Cloud のユーザー名を入力します。
8. 設定を保存します。
9. [編集] をクリックします。
10. [有効] を選択します。
11. [API ユーザー] を選択します。
12. [ユーザー権限] で、次の最小権限を選択します。
 - Web サービスへのアクセス権をユーザーに付与
 - 管理データの管理
 - データエクステンションデータおよび保持ポリシーの管理
13. [Marketing Cloud 権限とロール] で、[アプリケーション] に [メール] を選択します。
14. [Marketing Cloud 権限とロール] で、[ロール] に [Marketing Cloud コンテンツエディター/パブリッシャー] または [管理者] を選択します。
15. ユーザーの変更を保存します。
16. すべての連携ユーザーでこのプロセスを繰り返します。

ユーザーと Marketing Cloud の連携

Marketing Cloud Connect 管理者は、Marketing Cloud Connect でユーザー設定プロセスを完了します。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、[Marketing Cloud] タブに移動します。
2. [Marketing Cloud Connector の設定] をクリックします。
3. [ユーザーの管理] をクリックします。

4. 該当する各ユーザーを選択します。
5. Marketing Cloud Connect ユーザーの設定を完了するには、変更を保存します。

Marketing Cloud Connect の使用事例

設定の完了後の Marketing Cloud Connect 機能の使用方法について確認します。複数組織設定の構成、メールの送信、トリガーによる送信の構成、同期データソースの構成、Journey Builder との連携を行う手順を実行します。

Marketing Cloud Connect での複数組織アカウント構成

複数組織は Enterprise 2.0 アカウント構成です。この設定を使用すると、個々の Marketing Cloud ビジネスユニットを親アカウントや他のビジネスユニットとは無関係に 1 つの Salesforce 組織に接続できます。Marketing Cloud Connect を使用する場合、この設定には 2 つの設定シナリオが含まれます。

メール送信

統合されたユーザーは、Marketing Cloud Connect を介して Sales Cloud または Service Cloud から Marketing Cloud メールを送信します。1 つのメールをリード、取引先責任者、個人取引先レコードに送信したり、キャンペーンやレポートでリストに送信したりします。

Marketing Cloud Connect の Salesforce データエクステンション

データエクステンションはユーザーのデータを含むテーブルです。Marketing Cloud Connect と共に Salesforce データエクステンション (SFDE) を使用して、Marketing Cloud から Sales Cloud または Service Cloud 組織にトラッキングデータをプッシュバックします。Marketing Cloud の Salesforce 送信を使用して SFDE オーディエンスに送信されたメールのあらゆるトラッキングデータを、接続された組織の Salesforce 取引先責任者またはリードレコードにプッシュします。SFDE では、標準データエクステンションと同じ Marketing Cloud セグメンテーションツールとフィルターツールを使用できます。レポートまたはキャンペーンへの送信から作成されたデータエクステンションには、5 日間の保持ポリシーがハードコーディングされています。

トリガーによる送信

トリガーによるメールの送信を使用して、オブジェクトレコードの作成または更新時に自動メッセージを作成して、Salesforce 取引先責任者、リード、または個人取引先に送信します。

Contact Builder の同期したデータソース

Contact Builder の同期したデータソースは、Salesforce のデータを Marketing Cloud Engagement に取り込みます。同期したデータソースは、定義された時間間隔で Salesforce アカウントのデータを同期します。この同期には、Salesforce CRM アカウントで以前に確立されたデータスキーマとリレーションシップが含まれます。

Journey Builder 連携

Journey Builder は、自動化された反応型マルチチャネルキャンペーンを作成するために使用される Marketing Cloud アプリケーションです。Journey Builder を使用して、ブランドのジャーニーの各ステージで顧客にリーチするコミュニケーション計画を作成します。Sales Cloud または Service Cloud 内で特定の Journey Builder 機能にアクセスするように組織の Marketing Cloud Connect を設定します。たとえば、ジャーニーのステップとしてリード、取引先責任者、またはユーザーをジャーニーに追加したり、Salesforce オブジェクトを更新したりします。

Marketing Cloud Connect での複数組織アカウント構成

複数組織は Enterprise 2.0 アカウント構成です。この設定を使用すると、個々の Marketing Cloud ビジネスユニットを親アカウントや他のビジネスユニットとは無関係に 1 つの Salesforce 組織に接続できます。Marketing Cloud Connect を使用する場合は、この設定には 2 つの設定シナリオが含まれます。

- 複数のビジネスユニットを複数組織に接続します。
- Government Cloud に接続している場合は、この設定シナリオのみがサポートされます。
 - 📌 **メモ:** 複数組織環境では同一システムユーザーに対して最大 5 個のビジネスユニットがサポートされます。5 個より多くのビジネスユニットを使用した場合、サービスが低下し、サーバーに悪影響が及ぶ可能性があります。5 個を超えるビジネスユニットを接続する必要がある場合、追加のシステムユーザーを指定します。
- 複数のビジネスユニットを 1 つの組織に接続します。
 - 📌 **メモ:** 複数組織は Enterprise 2.0 アカウントで使用できます。これには、接続アプリケーション認証とカスタムプロファイルセンターが必要です。所有するアカウントの種別が不明な場合は、詳細は、Marketing Cloud エディションを確認してください。

複数組織を設定する場合は次のベストプラクティスに従うことをお勧めします。

f

- [すべての購読者] リストへのアクセス権を制御します。

複数組織アカウントであっても、Marketing Cloud の [すべての購読者] リストには、すべての購読者の包括的なリストが表示されます。ユーザーにそのユーザーがアクセスできる組織以外の購読者を表示しないようにするには、管理者以外のユーザーの [すべての購読者] へのアクセス権を削除し、購読者のビジネスユニットフィルターを使用します。
- ビジネスユニットとユーザーの接続を計画します。

アカウントの切断はサポートされますが、Salesforce 組織と Marketing Cloud ビジネスユニットおよびユーザーとの接続を実装前に慎重に計画してください。
- 専用 API ユーザーを使用します。

接続した各ビジネスユニットに専用 API ユーザーを割り当てて、接続後の混乱を低減します。複数のビジネスユニットを同じ Salesforce 組織に接続する場合は、共有 API ユーザーを使用します。
- 🚨 **警告:** 複数組織の構成で、同期したデータソースを使用している場合、Sales Cloud または Service Cloud からビジネスユニットを切断すると、同期済みデータエクステンションの名前が変更される可能性があります。継続的に機能させるには、該当の同期済みデータエクステンションを参照するクエリアクティビティを更新します。

複数組織のアカウントとユーザーの設定

複数組織では、Marketing Cloud ビジネスユニットと Sales Cloud または Service Cloud 組織の 1 対 1 接続が Marketing Cloud Connect を介してサポートされます。また、複数組織では、Marketing Cloud ビジネスユニットと Sales Cloud または Service Cloud 組織の多対 1 接続もサポートされます。複数組織では、ビジネスユニットと Sales Cloud または Service Cloud 組織の 1 対多接続、または複数の Enterprise 2.0 アカウントのビジネスユニットから同一組織への接続はサポートされません。複数組織ではこのビジネスユニットの設定に基づいてさまざまなユーザーマッピングがサポートされます。

複数組織の FAQ

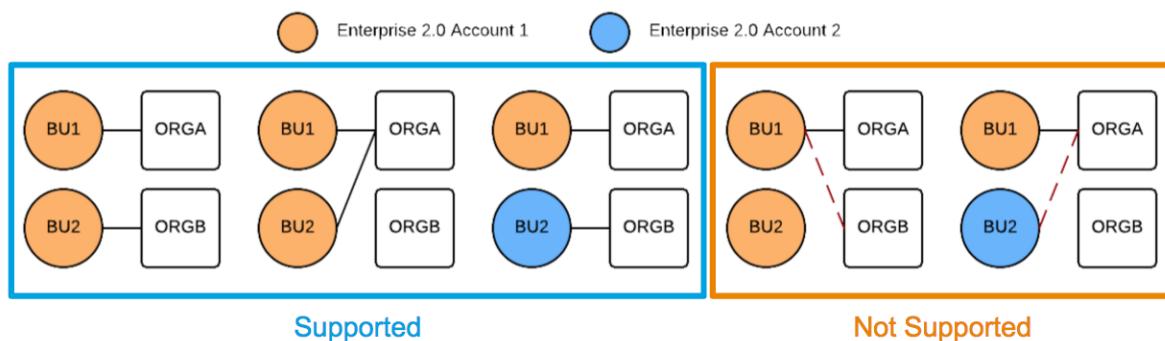
Marketing Cloud Connect の複数組織の設定に関する質問に回答します。

複数組織アカウントへのアップグレード

Marketing Cloud Connect では、複数組織アカウントによって柔軟にすることができますが、アップグレードによって Enterprise 2.0 アカウントの基礎となる構造が影響されます。アップグレードする前に、互換性に関する、次の考慮事項を確認してください。

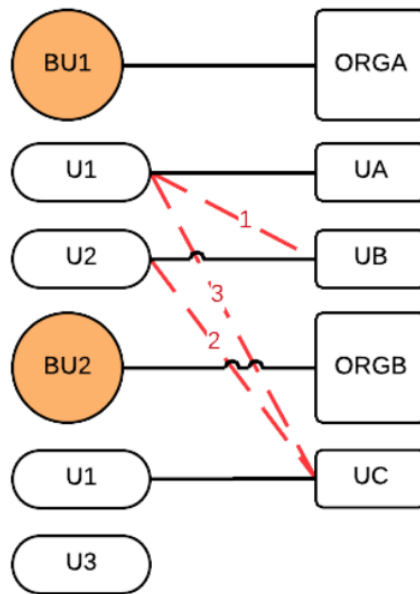
複数組織のアカウントとユーザーの設定

複数組織では、Marketing Cloud ビジネスユニットと Sales Cloud または Service Cloud 組織の 1 対 1 接続が Marketing Cloud Connect を介してサポートされます。また、複数組織では、Marketing Cloud ビジネスユニットと Sales Cloud または Service Cloud 組織の多対 1 接続もサポートされます。複数組織では、ビジネスユニットと Sales Cloud または Service Cloud 組織の 1 対多接続、または複数の Enterprise 2.0 アカウントのビジネスユニットから同一組織への接続はサポートされません。複数組織ではこのビジネスユニットの設定に基づいてさまざまなユーザーマッピングがサポートされます。

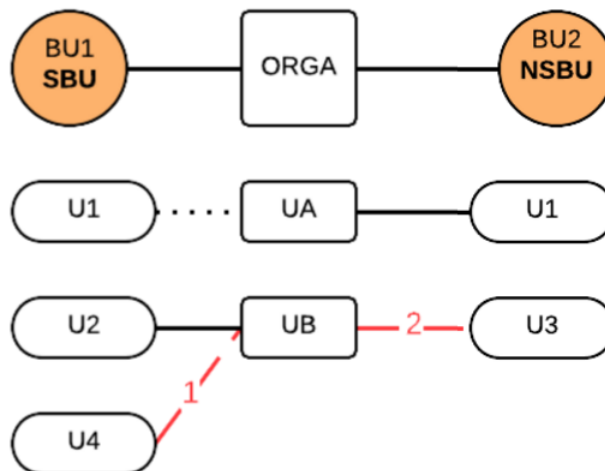


複数組織のユーザーの設定

1 人の Marketing Cloud ユーザーが複数の Marketing Cloud ビジネスユニットにアクセスできます。ビジネスユニットへのアクセス権によって複数組織にアクセスできるかどうかが決まります。



- Sales Cloud または Service Cloud ユーザーが異なる組織に存在し、接続されたビジネスユニットへのアクセス権が Marketing Cloud ユーザーにある場合、1 人の Marketing Cloud ユーザーを複数の Sales Cloud ユーザーまたは Service Cloud ユーザーにマップできます。この例では、ユーザー U1 は ORGA の UA にすでにマップされていますが、U1 を ORGB の UC にもマップできます。U1 に両方のビジネスユニットへのアクセス権があり、UA と UC が異なる組織に存在するためです。
- 1 人の Marketing Cloud ユーザーを 1 つの組織内の複数の Sales Cloud ユーザーまたは Service Cloud ユーザーにマップすることはできません。この例では、U1 は UA にマップされており、同じ組織の他のユーザーに U1 をマップすることはできません (波線 1 を参照)。
- Marketing Cloud ユーザーがアクセスできないビジネスユニットに Sales Cloud または Service Cloud ユーザーの組織が接続されている場合、Marketing Cloud ユーザーを Sales Cloud または Service Cloud ユーザーにマップすることはできません。この例では、U2 に BU2 へのアクセス権がないため、U2 を UC にマップすることはできません (波線 2 を参照)。
- 複数のビジネスユニットを介してユーザーを複数組織にマップできます。ただし、ユーザーは自分がログインしているビジネスユニットに接続された組織にのみアクセスします。この例では、U1 は BU1 と BU2 にアクセスできますが、BU1 にログインしている間は U1 を UC にマップすることはできません (波線 3 を参照)。UC に接続するには、U1 は BU2 にログインする必要があります。
- 接続されていない Marketing Cloud ユーザーは Marketing Cloud にのみ接続します。この例では、U3 は Sales Cloud または Service Cloud 組織にアクセスできません。



- Marketing Cloud ユーザーが複数の接続されたビジネスユニットにアクセスできる場合、Marketing Cloud ユーザーを同じ Sales Cloud ユーザーまたは Service Cloud ユーザーにマップできます。この例では、ユーザー U1 は同じ Enterprise 2.0 アカウント内の複数のビジネスユニットにアクセスします。これらのビジネスユニットは、同じ Sales Cloud 組織または Service Cloud 組織に接続されています。U1 は同じ Sales Cloud ユーザーまたは Service Cloud ユーザー (UA) にどちらのビジネスユニットからも接続できます。
- 複数の Marketing Cloud ユーザーを同じ Sales Cloud ユーザーまたは Service Cloud ユーザーにマップすることはできません。この例では、U2 が UB に接続されているため、U3 と U4 は UB に接続できません。

複数組織の FAQ

Marketing Cloud Connect の複数組織の設定に関する質問に回答します。

複数組織はデフォルトで有効になっていますか？

いいえ。複数組織はサポートから要求する必要があります。アカウントが調査されて、複数組織が適切かどうかを確認されます。

誰が複数組織アカウントにアップグレードできますか？

複数組織は Enterprise 2.0 アカウント構成です。バージョン 5.494 以降の Marketing Cloud Connect と接続アプリケーション認証が必要です。

複数組織の利点は？

複数組織では、複数の Salesforce 組織が 1 つの Enterprise 2.0 アカウントに接続され、Enterprise 2.0 アカウントのすべての利点を活用できます。Sales Cloud または Service Cloud の接続は、ビジネスユニットレベルで管理されます。複数組織は、Marketing Cloud のマーケティングコンテンツを一元管理しながら、組織全体で個別の CRM データを保持する優れたソリューションです。

複数組織にアップグレードする理由は?

通常、各種データを保持したり、さまざまなビジネス機能を提供したりする複数の Sales Cloud または Service Cloud インスタンスがあるお客様にはアップグレードの利点があります。

既存のアカウントで複数組織を有効にできますか?

はい。既存の Enterprise 2.0 アカウントにアップグレードすることはできますが、以前に接続されたビジネスユニットは手動で再接続する必要があります。最上位 (親) アカウントは接続されたままです。

例: 5 つのビジネスユニットが 1 つの Sales Cloud 組織に接続された標準の Enterprise 2.0 Marketing Cloud アカウントがあります。最上位 (親) アカウントは同じ組織に接続されています。複数組織以外のアカウントでは、5 つのすべてのビジネスユニットで親レベルの接続を継承できます。複数組織を有効にすると、ビジネスユニットの接続の継承が削除されて、既存のビジネスユニットの接続が破棄されます。最上位 (親) アカウントは接続されたままです。各ビジネスユニットは、アップグレード後に適切な Sales Cloud 組織に個別に再接続する必要があります。また、ビジネスユニットレベルでユーザーマッピングも再接続します。

複数組織では新規または個別の Marketing Cloud Connect のインストールが必要ですか?

いいえ。バージョン 5.494 以降を使用している既存の Marketing Cloud Connect ユーザーは複数組織を使用できません。複数組織が有効化されている場合、アカウントは切断されます。アカウントを切断すると、既存のユーザーマッピング、属性マッピング、購読トラッキングが削除されます。

複数組織を無効にできますか?

いいえ。アカウントを複数組織にアップグレードすると、無効にすることはできできません。

複数組織の改善はどのように取得できますか?

複数組織の改善や機能強化は、Marketing Cloud リリースごとに自動的にアカウントにプッシュされます。

複数組織のベストプラクティスは?

カスタムプロファイルセンターを使用し、アカウントとユーザー設定を慎重に計画して、すべての購読者リストアクセスを制御することをお勧めします。「[複数組織のアカウントの設定](#)」(ページ 33)を確認してください。

親のマッピングは子ビジネスユニットに継承されますか?


いいえ。親のマッピングの継承は、現在サポートされていません。すべての接続はビジネスユニットレベルで管理する必要があります。アップグレード中は、処理予定の送信はすべて失敗するため、Marketing Cloud Connect を介した送信はすべて一時停止されます。

ユーザーの接続時に制限はありますか？

はい。Sales Cloud ユーザーと Marketing Cloud ユーザー間に 1 対 1 の接続が確立されます。ただし、より複雑な接続スキームのサポートは、ビジネスユニットの接続によって異なります。

アカウントを切断できますか？

はい。Marketing Cloud の [Salesforce 連携] 画面を使用して、Sales Cloud または Service Cloud のビジネスユニットを切断できます。アカウントを切断すると、既存のユーザーマッピング、属性マッピング、購読トラッキングが削除されます。切断したら、そのビジネスユニットを対象となる任意の組織に接続できます。

 **警告:** 複数組織の構成で、同期したデータソースを使用している場合、Sales Cloud または Service Cloud からビジネスユニットを切断すると、同期済みデータエクステンションの名前が変更される可能性があります。継続的に機能させるには、該当の同期済みデータエクステンションを参照するクエリアクティビティを更新します。

再接続のベストプラクティスはありますか？

はい。切断して異なる Salesforce 組織に再接続する場合、再接続する前に Marketing Cloud Connect 設定で [切断] をクリックします。プロセスの間、同期したデータソースをすべて一時停止します。

ビジネスユニット (BU) 間で Salesforce データエクステンション (SFDE) を共有できますか？

いいえ。同じ組織に接続されている BU 間でも複数組織アカウントで SFDE を共有することはできません。標準データエクステンションおよびコンテンツの共有はサポートされています。共有 Salesforce データエクステンションフォルダーでデータエクステンションを確認して移動してください。複数組織を有効にすると、アクセス権は削除されます。

複数組織でパーソナライズはサポートされていますか？

はい。ただし、標準項目のみになります。Sales Cloud のカスタム項目を使用するには、AMPscript が必要になります。

複数組織で標準プロフィールセンターはサポートされていますか？

いいえ。複数組織では、カスタムプロフィールセンターが必要になります。

Web コレクトはサポートされていますか？

いいえ。

ビジネスユニットごとに1つのカスタムプロフィールセンター (CPC) が必要ですか？

いいえ。ビジネスユニットごとに1つのCPCは必須ではなく、省略可能です。他にも、1つのCPCを使用してビジネスユニットの購読取り消しを管理したり、複数のCPCを使用してビジネスの主要部門、出版物、縦関係を同調させることができます。CAN-SPAMに準拠するように購読取り消しを管理することは重要です。

Sandbox アカウントや本番アカウントで複数組織を使用できますか？

はい。ただし、次の点を考慮してください。

- Marketing Cloud では Sandbox を昇格できません。組織の Sandbox を本番組織に昇格することはできません。「テスト」ビジネスユニットの変更を別の「本番」ビジネスユニットに昇格することはできません。
- 通常、Sandbox はアカウントに悪影響を与えるリスクの高いアイテムのテスト (読み込みテスト、パフォーマンステスト、ボリュームテストなど) に使用されます。本番アカウントを Sandbox アカウントに接続すると、本番アカウントに損害を与えるリスクが高くなります。
- Marketing Cloud ビジネスユニットのデータは分離されていません。Sandbox を使用する場合、テストデータと本番データが混在しているため、データのクリーン度に影響し、レポートやオーディエンスの作成などが複雑になります。
- すべてのビジネスユニットは同時にコードを受信します。リリース前に Sales Cloud または Service Cloud の変更をテストできます。ただし、Marketing Cloud の変更はビジネスユニットが Sandbox に関連付けられているかどうかに関係なく同時に稼働します。

複数組織アカウントでディープリンクは機能しますか？

はい。ただし、次の点を考慮してください。複数組織アカウントでディープリンクを使用する場合、デフォルトの Marketing Cloud ビジネスユニットにログインします。このログインは、ビジネスユニットが Marketing Cloud Connect を介して Sales Cloud または Service Cloud で使用されるように設定されているかどうかに関係ありません。デフォルト以外のビジネスユニットにアクセスするには、目的の Marketing Cloud ビジネスユニットに直接ログインします。誤ったビジネスユニットの変更を回避するには、ディープリンクを使用しないようにします。

複数組織アカウントへのアップグレード

Marketing Cloud Connect では、複数組織アカウントによって柔軟にすることができますが、アップグレードによって Enterprise 2.0 アカウントの基礎となる構造が影響されます。アップグレードする前に、互換性に関する、次の考慮事項を確認してください。

- 複数組織の Enterprise 2.0 Marketing Cloud アカウントは有効です。
- 接続アプリケーション認証のアップグレードがインストールされます。
- Marketing Cloud Connect 管理パッケージバージョン 5.494 以降がインストールされます。
- Marketing Cloud 管理者がカスタムプロフィールを構成します。
- Sales Cloud または Service Cloud の複数組織が存在します。
- Marketing Cloud API ユーザーと Salesforce システムユーザーは、ライセンスを使用できます。

- webcollect のカスタムフィールドは複数組織ではサポートされていません。つまり、フォームにカスタムフィールドが含まれている場合、購読者から提供されるデータを収集できません。

アカウントが互換性の要件を満たしていることを確認したら、次の手順に従ってアップグレードします。アップグレードには最低2時間が必要です。

1. アップグレードするには、Salesforce ヘルプでサポートチケットを登録します。
2. アップグレードが完了するまで、Sales Cloud または Service Cloud による、すべての Marketing Cloud メール送信を一時停止してください。
3. 同期データソースを使用している場合、アップグレードが完了するまですべてのクラウドでデータ同期を一時停止します。

❗ 重要: 同期データソースで複数組織を使用している場合、トラッキングユーザーが接続しているビジネスユニットが5個未満であることを確認します。

4. パフォーマンスを向上するには、既存のアカウントで複数組織にアップグレードした後、以前接続していたビジネスユニットを再接続します。

❗ 重要: 複数組織をオンに切り替えた後でオフに切り替えることはできません。

メール送信

統合されたユーザーは、Marketing Cloud Connect を介して Sales Cloud または Service Cloud から Marketing Cloud メールを送信します。1つのメールをリード、取引先責任者、個人取引先レコードに送信したり、キャンペーンやレポートでリストに送信したりします。

Sales Cloud または Service Cloud からの送信

次のいずれかからメールを送信します。

- 実行ユーザー: 現在 Salesforce にログインしているユーザー。
- レコード所有者: 送信者としてレコードを作成したユーザー。
- 組織のメールアドレス: メールアドレスが送信者候補としての条件を満たしている Sales Cloud または Service Cloud のユーザーのリスト。
- 送信分類: 関連付けられている送信者プロファイルを使用します。

📌 メモ: すべてのデフォルトの送信者プロファイル、配信プロファイル、送信分類が削除または名前変更されていないことを確認してください。Marketing Cloud Connect は、[デフォルト: Commercial] および [デフォルト: Transactional] の送信分類を識別します。

Marketing Cloud Connect により、取引先責任者、リード、個人取引先に Sales Cloud または Service Cloud からメッセージを初めて送信したとき、受信者は Marketing Cloud の [すべての購読者] リストに追加されます。たとえば、レポートに含まれる取引先責任者に、Sales Cloud から Marketing Cloud のメールを送信すると、その取引先責任者は [すべての購読者] リストに追加されます。[すべての購読者] リストでは、その購読者の Marketing Cloud ステータスは [有効] に設定されます。


また、Marketing Cloud Connect により、取引先責任者、リード、個人取引先に Sales Cloud または Service Cloud からメッセージが初めて送信されたときに、その個人を識別するための一意の Marketing Cloud 購読者キーが LeadID

または ContactID フィールドに基づいて作成されます。個人のメールトラッキング履歴、メールオプトアウト、および設定が購読者キーに関連付けられます。リード取引開始プロセスを使用してリードを Sales Cloud の取引先責任者に変換する場合、ContactID が Marketing Cloud に送信されたときに新しい購読者キーを使用して新しい購読者が追加されます。したがって、個人のトラッキングデータ、オプトアウト、および設定は自動的に転送されません。

Marketing Cloud からの送信

Marketing Cloud の従来のメールと Content Builder のメールを Marketing Cloud の Email Studio から直接 Salesforce のレポート、キャンペーン、データエクステンションに送信することもできます。

Marketing Cloud と Sales Cloud または Service Cloud のユーザーアカウントが連携されると、レポート、キャンペーン、Salesforce データエクステンションが使用可能な受信者オプションになります。次のいずれかの方法を使用して送信します。

- 従来のメールのガイド付き送信を実行する
 - Content Builder メール送信フローを実行する
 - 従来のメールと Content Builder の両方の [インタラクション] で [Salesforce メール送信] を選択する
-  **メモ:** この機能が表示されませんか? [ユーザーの詳細] レコードでユーザーが CRM に接続されると使用できるようになります。Salesforce.com のステータスは [連携済み] になります。

Marketing Cloud Connect での単一メールの送信

次の手順に従って、Marketing Cloud Connect を使用して Sales Cloud または Service Cloud 内から単一の Marketing Cloud メールを送信します。

キャンペーンまたはレポートへの送信

Marketing Cloud Connect を介して Sales Cloud または Service Cloud 内から Marketing Cloud メールをキャンペーンまたはレポートに送信します。レポートには取引先責任者 ID、ContactID、リード ID、または LeadID フィールドが含まれる必要があります。レポートを送信用のカスタム Salesforce フォルダーに保存し、送信の実行ユーザーがそのフォルダーにアクセスできることを確認します。Marketing Cloud Connect では、結合レポートへの送信、または標準の Salesforce フォルダーに保存されたレポートへの送信はサポートされません。



キャンペーンまたはレポートへの Marketing Cloud 送信

この Marketing Cloud Connect 機能を使用して、Salesforce 送信定義を作成し、Marketing Cloud 内で Salesforce キャンペーンまたはレポートに送信します。レポートには取引先責任者 ID、ContactID、リード ID、または LeadID フィールドが含まれる必要があります。レポートを送信用のカスタム Salesforce フォルダーに保存し、送信の実行ユーザーがそのフォルダーにアクセスできることを確認します。Marketing Cloud Connect では、結合レポートへの送信、または標準の Salesforce フォルダーに保存されたレポートへの送信はサポートされません。

Marketing Cloud Connect での単一メールの送信


次の手順に従って、Marketing Cloud Connect を使用して Sales Cloud または Service Cloud 内から単一の Marketing Cloud メールを送信します。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、リード、取引先責任者、個人取引先、またはキャンペーンに移動します。
2. [Marketing Cloud メールを送信] をクリックします。

- Marketing Cloud メールにアクセスするには、[検索]をクリックします。
- メールを選択します。
- 送信者メールアドレスを選択します。
- 返信先メールアドレスを選択します。
 -  **メモ:** アカウントで返信メール管理が設定されていることを確認します。
- 送信に対して購読者レベルのトラッキングを作成しないようにする場合、[個別レベルのトラッキングの無効化]を選択します。
- 送信する日時を設定します。
 -  **メモ:** この設定はプロセスの開始日時を決定します。メールを送信する実際の日時ではありません。スケジュールされた送信の更新とキャンセルができます。
- メールを受信者に送信する権限があることを確認します。
- メールを送信します。


キャンペーンまたはレポートへの送信

Marketing Cloud Connect を介して Sales Cloud または Service Cloud 内から Marketing Cloud メールをキャンペーンまたはレポートに送信します。レポートには取引先責任者 ID、ContactID、リード ID、または LeadID フィールドが含まれる必要があります。レポートを送信用のカスタム Salesforce フォルダーに保存し、送信の実行ユーザーがそのフォルダーにアクセスできることを確認します。Marketing Cloud Connect では、結合レポートへの送信、または標準の Salesforce フォルダーに保存されたレポートへの送信はサポートされません。

-  **メモ:** レポートまたはキャンペーンに送信すると、Marketing Cloud Connect でその送信のデータエクステンションが作成されます。このデータエクステンションは 5 日後に自動的に削除されます。
- Sales Cloud または Service Cloud で、[Marketing Cloud] タブに移動します。
 - 自動的にリダイレクトされない場合、[メール送信]をクリックします。
 - Enterprise 2.0 アカウントを使用する場合、検索ツールを使用して、メール送信の実行元のビジネスユニットを選択します。
 - Marketing Cloud メールを選択するには、[検索]をクリックします。
 - 送信前にメールを表示するには、[メールのプレビュー]をクリックします。
 - 必要に応じて、件名行を編集します。
 - 最大 10 個のレポートまたはキャンペーンを [受信者] に追加します。
 - 必要に応じて、レポートまたはキャンペーンを [除外] フィールドに追加し、送信から受信者を除外します。
 - メールリンケージを作成するには、[このメールの受信者と除外者を記憶します]を選択します。これを選択すると、この受信者と除外者の特定のリストにメールが関連付けられます。以降の送信でこのメールを選択すると、ここで選択したレポートまたはキャンペーンが [受信者] と [除外] フィールドに自動的に入力されます。
 - 送信者メールアドレスまたは送信分類を選択します。

 **メモ:** 取引先責任者にメール送信除外フラグが設定されている場合、Marketing Cloud メールが Transactional の送信分類でない限り、取引先責任者は Marketing Cloud メールを受信しません。Transactional の送信分類では、Marketing Cloud Connect のバージョン 5.18 以降が必要です。

11. このメールへの返信を受信するために使用する [返信先] メールアドレスを選択します。
12. この送信で同じメールアドレスに複数のメールが送信されないようにするには、[購読者の重複を除去] を選択します。
13. この送信で購読者レベルのトラッキングを回避するには、[個別のトラッキングを無効化] を選択します。
14. メール送信プロセスを開始する [送信日時] を設定します。

 **メモ:** 必要に応じて、スケジュールされた送信を更新またはキャンセルします。


15. すべての受信者がメールの受信をオプトインして許可したことを保証します。
16. メールを送信します。

キャンペーンまたはレポートへの Marketing Cloud 送信

この Marketing Cloud Connect 機能を使用して、Salesforce 送信定義を作成し、Marketing Cloud 内で Salesforce キャンペーンまたはレポートに送信します。レポートには取引先責任者 ID、Contact ID、リード ID、または Lead ID フィールドが含まれる必要があります。レポートを送信用のカスタム Salesforce フォルダーに保存し、送信の実行ユーザーがそのフォルダーにアクセスできることを確認します。Marketing Cloud Connect では、結合レポートへの送信、または標準の Salesforce フォルダーに保存されたレポートへの送信はサポートされません。

 **メモ:** Marketing Cloud 内で最大 10 個の Salesforce キャンペーンまたはレポートに送信します。


1. Marketing Cloud で、[Email Studio] に移動します。
2. インタラクションで [Salesforce メール送信] をクリックします。
3. [作成] をクリックします。
4. メールの名前と説明を入力します。
5. 送信するメールを選択します。
6. 送信分類を選択します。
7. [受信者の編集] をクリックします。
8. Salesforce レポート、キャンペーン、またはデータエクステンションを [対象設定済み] 受信者リストに追加します。
9. 検索ウィンドウからレポート、キャンペーン、またはデータエクステンションを選択します。

 **ヒント:** すべてのレポートまたはキャンペーンを返すには、検索フィールドを空白のままにして、[今すぐ検索] をクリックします。

10. 必要に応じて、Salesforce レポート、キャンペーン、またはデータエクステンションを [除外] リストに追加します。
11. 受信者リストを保存します。
12. Salesforce 送信定義を保存します。

Salesforce 送信定義が作成されます。

13. Marketing Cloud で、[Email Studio] に移動します。

 **メモ:** 送信をスケジュール後にメールに行った変更は、スケジュール済み送信に反映されます。

14. インタラクションで [Salesforce メール送信] をクリックします。

15. Salesforce 送信定義を選択します。

16. [送信] をクリックします。

17. 送信を開始する日時を選択します。


18. すべての受信者がメールの受信を許可したことを保証します。

19. [送信] をクリックします。

送信が完了しました。

Marketing Cloud Connect の Salesforce データエクステンション

データエクステンションはユーザーのデータを含むテーブルです。Marketing Cloud Connect と共に Salesforce データエクステンション (SFDE) を使用して、Marketing Cloud から Sales Cloud または Service Cloud 組織にトラッキングデータをプッシュバックします。Marketing Cloud の Salesforce 送信を使用して SFDE オーディエンスに送信されたメールのあらゆるトラッキングデータを、接続された組織の Salesforce 取引先責任者またはリードレコードにプッシュします。SFDE では、標準データエクステンションと同じ Marketing Cloud セグメンテーションツールとフィルターツールを使用できます。レポートまたはキャンペーンへの送信から作成されたデータエクステンションには、5 日間の保持ポリシーがハードコーディングされています。

 **メモ:** Salesforce データエクステンションが見つかりませんか? この機能にアクセスするには、Marketing Cloud の [ユーザーの詳細] レコードでユーザーを CRM に接続します。[ユーザーの詳細] レコードの [Salesforce.com ステータス] に [連携済み] が表示されます。

前提条件

Salesforce データエクステンション (SFDE) の使用を開始する前に購読者キー、メールフィールド、およびフィールド名を確認します。

- 18 桁の Salesforce 取引先責任者 ID またはリード ID (15 桁ではない) を使用して購読者キーにマップします。取引先責任者 ID またはリード ID を含むレポートフィールドの名前が [取引先責任者 ID] または [リード ID] の場合、購読者キーは 15 から 18 桁に自動的に変換されます。「ID」というラベル付きのフィールドでは 15 桁の取引先責任者 ID またはリード ID が使用されますが、Marketing Cloud 内ではその ID が重複する可能性があります。手動のフラットファイルインポートを使用して標準データエクステンションにインポートした取引先責任者 ID またはリード ID は 15 桁から 18 桁の購読者キーに自動的に変換されません。
- SFDE にインポートするには、メールフィールドの種類を [メールアドレス] に設定する必要があります。これを設定しない場合、レポートは標準データエクステンションにインポートされ、トラッキングは Sales Cloud または Service Cloud に返されません。
- フィールド名に ? または * を含めることはできません。

Salesforce データエクステンションの作成および管理手順については、データエクステンションのドキュメントに従ってください。

Salesforce データエクステンションのインポート

インタラクションを使用して、Salesforce データエクステンションを Marketing Cloud にインポートします。アクセス可能な Sales Cloud レポートまたは Service Cloud レポートを使用してインポートアクティビティを作成します。たとえば、Marketing Cloud 内であるレポートにアクセスできない場合、Sales Cloud または Service Cloud の Marketing Cloud 管理者フォルダー内でそのレポートにアクセスできません。

「ユーザー別のスコープ」アカウントでは、手動インポートと自動インポートの動作が異なります。

- 手動インポートアクティビティにはスコープが適用されるため、レポートに表示されるレコード数はインポートを実行するユーザーによって異なります。
- すべての自動インポートアクティビティは、Marketing Cloud API ユーザーとして実行されます。したがって、レコード数は、データへの Salesforce システムユーザー (トラッキングユーザー) のアクセスレベルを反映します。

「ユーザー別のスコープなし」アカウントの場合、インポートで返される結果は Salesforce システムユーザーのデータアクセスに基づきます。

Salesforce データエクステンションまたはフィルターへの送信

Marketing Cloud Connect では、Salesforce データエクステンションまたは Salesforce データエクステンションフィルターに送信するプロセスは、2つのステップで構成されます。まず、Salesforce 送信メール定義を作成します。次に、Salesforce データエクステンションまたはデータエクステンションフィルターに送信します。

Salesforce データエクステンションまたはフィルターへの送信

Marketing Cloud Connect では、Salesforce データエクステンションまたは Salesforce データエクステンションフィルターに送信するプロセスは、2つのステップで構成されます。まず、Salesforce 送信メール定義を作成します。次に、Salesforce データエクステンションまたはデータエクステンションフィルターに送信します。

Salesforce 送信定義の作成

1. Marketing Cloud で、[Email Studio] に移動します。
2. インタラクションで、[Salesforce メール送信] をクリックします。
3. [作成] をクリックします。
4. 名前を入力します。
5. [メッセージ] で、メールを選択します。
6. 送信分類を選択します。
7. [受信者の編集] をクリックします。
8. [Salesforce データエクステンション] を展開します。
9. 目的の Salesforce データエクステンションまたは Salesforce データエクステンションフィルターを選択します。

10. 選択したものを [対象設定済み] に追加します。
11. 新しい送信定義を保存します。

Salesforce データエクステンションまたは Salesforce データエクステンション フィルターへの送信

1. Marketing Cloud で、[Email Studio] に移動します。
2. インタラクションで、[Salesforce メール送信] をクリックします。
3. Salesforce データエクステンションまたはデータエクステンションフィルターを選択します。
4. [送信] をクリックします。
5. すぐに送信するように選択するか、送信時間をスケジュールします。
6. オプトインを保証します。
7. [送信] をクリックします。

トリガーによる送信

トリガーによるメールの送信を使用して、オブジェクトレコードの作成または更新時に自動メッセージを作成して、Salesforce 取引先責任者、リード、または個人取引先に送信します。

[Marketing Cloud Connect のトリガーによる送信について](#)

重要な前提条件を確認し、MarketingCloudConnect でトリガーによる送信を効率的に使用する方法を習得してください。

[オブジェクトとトリガーの設定](#)

MarketingCloudConnect でトリガーの作成、オブジェクトの有効化、およびトリガーの設定を行う手順を実行します。

[Marketing Cloud Connect での Salesforce のトリガーによる送信の作成](#)

Marketing Cloud Connect を介して自動メッセージを送信するには、トリガーによる送信を作成します。

[カスタムオブジェクトによるパーソナライズ](#)

カスタムオブジェクトと AMPscript を使用して Marketing Cloud Connect のメッセージをカスタマイズします。

[テストオブジェクトトリガー](#)

トリガーによるメールを Marketing Cloud Connect を介して送信する前に、テストスクリプトの使用方法について学びます。

Marketing Cloud Connect のトリガーによる送信について

重要な前提条件を確認し、Marketing Cloud Connect でトリガーによる送信を効率的に使用する方法を習得してください。

トリガーによる送信を使用して、関連していて適時でパーソナライズされたメッセージを自動的に送信します。トリガーによる送信の一般的な使用方法の例として、新規顧客への歓迎メールや購入の感謝メッセージが挙げられます。

取引先責任者 ID かリード ID のルックアップを含むオブジェクトでトリガーによる送信を作成するか、個人取引先が有効である場合は、取引先オブジェクトに対してトリガーによる送信を作成します。各オブジェクトのトリガーを作成した後では、更新イベントまたは挿入イベントがオブジェクトで発生するたびにメッセージは自動的に送信されます。

Marketing Cloud Connect では、Sales Cloud または Service Cloud 内のトリガーによる送信の多くの機能を使用できません。

- Marketing Cloud のトリガーによる送信を作成、編集する。
- クラウド全体の既存のトリガーによる送信を表示する。
- クラウド全体のトリガーによる送信の集計トラッキングデータを確認する。
- 特定のデータエクステンションに購読者を追加して、マーケティングの機会を増やす。送信先データエクステンションを選択しない場合、購読者は Marketing Cloud の [すべての購読者] リストに追加される。送信をアクティブにしたユーザーに [すべての購読者] リストへのアクセス権がない場合、取引先責任者またはリードはそのリストに追加されない。

開始する前に

- Marketing Cloud の [すべての購読者] リストに対するアクセス権を獲得してください。
- トリガーによる送信が Marketing Cloud で有効になっていることを確認してください。
- トリガーによる送信用に Marketing Cloud で送信分類を設定します。必要に応じて、[送信者名/メールアドレスの上書き] を使用して、Marketing Cloud Connect の送信分類を上書きします。
- トリガーによる送信に関連するメールは、Marketing Cloud の検証に合格する必要があります。

 **ヒント:** 次のベストプラクティスとガイドラインに従ってください。

- トリガーによる送信は、更新または挿入後に発生したイベントでのみ機能します。
- Marketing Cloud Connect でトリガーによる送信を作成した後にそのフィルター条件の変更や新規メールの選択を行うには、Sales Cloud または Service Cloud でトリガーによる送信を更新します。トリガーによる送信を Sales Cloud で作成した後に Marketing Cloud で編集すると、そのトリガーによる送信に関連付けられた ID が変更され、更新できなくなります。
- トリガーによる送信では Apex コードを使用します。Salesforce の開発者環境、Sandbox、トライアル組織でトリガーを作成してテストしてから、本番に公開してください。
- トリガーによる送信では、一括更新または一括挿入がサポートされません。
- Marketing Cloud Connect には SOQL クエリの制限が適用されます。トリガーによる送信の各評価は、一度に 100 件の SOQL 制限に対して 1 つのクエリを使用します。実行されるクエリ数を減らすには、`automateByName Apex` メソッドを使用します。
- トランザクション内で最大 50 件のトリガーによる送信 (一括レコード更新や、単一レコードのフィルター条件を満たす送信を含む) を実行できます。

オブジェクトとトリガーの設定

Marketing Cloud Connect でトリガーの作成、オブジェクトの有効化、およびトリガーの設定を行う手順を実行します。

 **メモ:** これらのタスクを完了するには、「トリガーによる送信の構成」権限が必要です。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、[設定] をクリックします。
2. [ビルド] で、[カスタマイズ] をクリックします。
3. 目的のオブジェクトを選択します。
4. [トリガー] をクリックします。
5. [新規] をクリックします。
6. [Apex トリガー] ウィンドウで、[有効] を選択します。
7. 次のコードの **Object Name** を目的のオブジェクトに置き換えて入力します。

```
trigger Trig_Object Name on Object Name (after insert, after update) {
    et4ae5.triggerUtility.automate('Object Name'); }
```

次に例を示します。

```
trigger Trig_Lead on Lead (after insert, after update) {
    et4ae5.triggerUtility.automate('Lead'); }
```

8. トリガーを保存します。
オブジェクトのトリガーが作成されます。
9. [Marketing Cloud] タブをクリックします。
10. [Marketing Cloud Connect の設定] をクリックします。
11. [設定の編集] をクリックします。
12. [トリガーによる送信] で、[制限] を選択してユーザー権限と制限を設定します。
13. [トリガーによる送信] で、トリガーによる送信で使用される [有効なオブジェクト] を追加します。
14. 設定と選択を保存します。
制限が設定され、オブジェクトが有効になります。


Marketing Cloud Connect での Salesforce のトリガーによる送信の作成

Marketing Cloud Connect を介して自動メッセージを送信するには、トリガーによる送信を作成します。

 **メモ:** これらのタスクを完了するには、「トリガーによる送信の構成」権限が必要です。

1. Sales Cloud または Service Cloud で、[Marketing Cloud] タブをクリックします。
2. [トリガーによる送信] をクリックします。
3. [新規] をクリックします。
4. [名前] に入力します。
5. [オブジェクト] でオブジェクトを選択します。

💡 ヒント: 1,000 を超える項目があるオブジェクトを選択した場合、選択できるのは最初の 1,000 項目のみです。

6. 受信者ソースへの参照関係がある [受信者検索] ソース項目を選択します。
たとえば、取引先責任者オブジェクトの場合は [取引先責任者ID]、リードオブジェクトの場合は [リードID] を選択します。選択できるのは 1 つの参照項目のみです。
7. 必要に応じて、イベントトリガーの [項目条件] を最大 9 個の条件までカスタマイズします。
 - a. 項目ロジックオプションを追加するには、[+] をクリックします。
 - b. 各条件が追加 (AND) と代替 (OR) のどちらであるかを指定するには、 をクリックします。
たとえば、「1 AND 2」と指定します。



8. 送信の評価の根拠となるレコードのアクションを決定するには、[送信をトリガーするタイミング] のオプションを選択します。
たとえば、最初の一致が見つかったときに 1 回送信するためのトリガーを設定するとします。チェックボックス A がオンの場合にメールを送信するトリガーを構成します。[送信をトリガーするタイミング] を [新規レコードの作成時、または既存のレコードの更新時] に設定した場合、チェックボックス A がオンになると、オンである間はレコードが更新されるたびにトリガーによる送信メールがトリガーされます。
9. [ビジネスユニット] を選択します (該当する場合)。
10. [メール] で、トリガーが有効になったときに送信するメールを選択します。
11. 送信前に実際の取引先責任者またはリードデータを使用して、パーソナライズされた動的コンテンツを含むメールを確認するには、[メールのプレビュー] をクリックします。
12. [件名行] に、選択したメールの件名が入力されます。必要に応じて、件名行を上書きします。
13. [送信分類] を選択します。
14. [送信時間] を指定します。
15. すべての受信者がメールを受信するようにオプトイン登録されていることを保証します。
16. トリガーによる送信を保存します。
17. トリガーによる送信を開始するには、[アクティブ化] をクリックします。

📌 メモ: 編集する前に、トリガーによる送信を無効にします。

カスタムオブジェクトによるパーソナライズ

カスタムオブジェクトと AMPscript を使用して Marketing Cloud Connect のメッセージをカスタマイズします。

取引先責任者またはリードに関連付けられたカスタムオブジェクトを使用して、Sales Cloud および Service Cloud からのトリガーによる送信をパーソナライズします。詳細にパーソナライズするには、カスタムオブジェクトと共に AMPScript を使用します。

たとえば、「Susan、あなたのケースがクローズされました」のように汎用的な返信を送信するのではなく、カスタムオブジェクトを使用して、「Susan、あなたのケース ABC123XYZ 「送信できない」が John Smith によって午後 11:29 にクローズされました」のように返信をパーソナライズします。

サンプル:

```
%%[
Set @mySObject = SObject
Set @myRecordId = RecordId
set @Case = RetrieveSalesforceObjects(SObject, "Subject,Status", "Id", "=", RecordId)
Set @CaseRow = Row(@Case, 1)
Set @Subject = FIELD(@CaseRow, "Subject")
Set @Status = FIELD(@CaseRow, "Status")
]%%
<br><br>
SObject From API Call: %%=v(@mySObject)=%% <br>
RecordId From API Call: %%=v(@myRecordId)=%% <br>
Subject From RetrieveSalesforceObjects: %%=v(@Subject)=%% <br>
Status From RetrieveSalesforceObjects: %%=v(@Status)=%% <br>
```

テストオブジェクトトリガー

トリガーによるメールを Marketing Cloud Connect を介して送信する前に、テストスクリプトの使用方法について学びます。

オブジェクトトリガーを本番に移行する前にテストスクリプトを提供します。トリガーの設定を使用してオブジェクトごとにスクリプトを繰り返します。オブジェクトの定義されたプロパティがオブジェクトのすべての必須プロパティを占めていることを確認します。

このテストスクリプトの例は取引先責任者オブジェクトに固有のものです。この例には、LastName='TestExample'が含まれます。

```
{
    private static testmethod void ContactTriggerTest()
    {
        insert new et4ae5__Configuration__c(et4ae5__Support_Ticket_Recipient__c =
'example@example.com');

        Test.startTest();

        Contact c = new Contact(LastName='TestExample');

        // Insert contact

        insert c;
    }
}
```

```
// If no exceptions occurred, it was successful

System.assert(!String.isBlank(c.Id));

Test.stopTest();

}

}
```

Contact Builder の同期したデータソース

Contact Builder の同期したデータソースは、Salesforce のデータを Marketing Cloud Engagement に取り込みます。同期したデータソースは、定義された時間間隔で Salesforce アカウントのデータを同期します。この同期には、Salesforce CRM アカウントで以前に確立されたデータスキーマとリレーションシップが含まれます。


同期したデータソースの前提条件

同期したデータソースを使用するには、アカウントで Contact Builder および Marketing Cloud Connect (バージョン 5) を使用する必要があります。同期したデータソースを有効にするには、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

Salesforce システムユーザーアカウントがアクティブで、パスワードがわかっていることを確認してください。

アカウントの複数のビジネスユニットを連携させるには、5 個以下のビジネスユニットに 1 つの連携ユーザーを使用します。

Sales Cloud または Service Cloud 組織の実装を完了し、その組織にデータを完全に入力できるようにしてから、同期したデータソースを設定します。この手順により、システムへの負荷を軽減してプロセスを完了できます。

 **メモ:** Marketing Cloud Connect では、Salesforce アカウントで使用している API バージョンよりも 1 つ低いバージョンを使用するオブジェクトがサポートされています。API バージョンが最新の使用可能な本番バージョンではない場合、一部の新しいオブジェクトまたは機能が同期したデータソースでサポートされません。

同期および同期したデータソース

同期したデータソースでは、マーケティングアクティビティの一部として Sales Cloud および Service Cloud ソースの情報を使用できます。

- 複数のソースの最新の情報を使用したパーソナライズ
- 複数のソースの情報を使用した動的コンテンツ
- Salesforce カスタムオブジェクトの詳細情報
- 同期したデータソースによるアクティビティログと Contact Builder を使用した同期の追跡

複数組織および同期したデータソース

同期したデータソースでは、1人のアクティブSalesforceシステムユーザーが複数のEngagementビジネスユニットに接続できます。同じアクティブSalesforceシステムユーザーを使用して接続する各ビジネスユニットは、同じデータモデルを使用して連携されます。この連携により、連携ビジネスユニットはSales Cloudから同期された同じデータを受け取り、そのデータにアクセスしてマーケティングアクティビティで使用できます。データソースを更新するために実行したアクション(フィールドの追加や削除など)は、Salesforceシステムユーザーを使用して連携されたすべてのビジネスユニットに反映されます。これらのアクションは複数のビジネスユニットに影響する可能性があるため、複数組織環境でのデータソースの変更による影響を理解してください。複数組織環境では同一トラッキングユーザーに対して最大5個のビジネスユニットがサポートされます。5個より多くのビジネスユニットを使用した場合、サービスが低下し、サーバーに悪影響が及ぶ可能性があります。

タイムゾーンおよび同期したデータソース

同期された日時情報はEngagementに保存されるときには米国中央標準時に変更されます。たとえば、Sales CloudでGMTの09/29/2019 00:00 AMとして保存された誕生日は、Marketing Cloudでは09/28/2019 07:00 PMに変更されません。

Engagementアプリケーションの他の部分でユーザーに対して設定されたタイムゾーンにかかわらず、同期されたデータエクステンションのレコードは常にCSTで表示されます。Sales CloudからEngagementに同期された日時情報を操作するときにはオフセットを使用してください。

[Contact Builder での同期したデータソースの作成](#)

Marketing Cloud Connectを連携し、Contact Builderでデータソースをリンクすると、同期されたデータソースは[データソース]セクションに表示されます。このプロセスの完了には少し時間がかかります。

Contact Builder での同期したデータソースの作成

Marketing Cloud Connectを連携し、Contact Builderでデータソースをリンクすると、同期されたデータソースは[データソース]セクションに表示されます。このプロセスの完了には少し時間がかかります。

このプロセスでは、同期する各フィールドに対して1列が含まれるデータエクステンションが作成されます。同期済みデータエクステンションには、同期済みオブジェクトの名前を使用してサフィックスSalesforce_nが追加されます。ここで、nは複数組織環境で使用される時のコピー番号を示します。たとえば、Contactデータソースを同期した場合、そのデータソースはMarketing Cloud EngagementにContact_Salesforce_1と表示されます。

オブジェクトが同期可能であるためには、次の基準を満たす必要があります。

- Queryable: True
- Creatable: True
- Retrievable: True
- Replicable: True
- CustomSetting: False

同期するためには、CreatedDate項目が使用可能である必要があります。

すべての列には指定したデータ型とデータ長が使用されます。Service CloudまたはSales Cloudでデータを追加、削除、または変更すると、[同期スケジュール]設定に基づいてEngagementでその変更が行われます。Engagement

は、Contact Builder データモデル内のエンティティに同じデータモデルを使用します。Journey Builder 内の顧客のインタラクションでは、プライマリキーと外部キーを使用し、連絡先をジャーニーに追加するリレーションシップを定義します。

メモ: 初回同期後に同期済みのオブジェクト間のリレーションシップを変更することはできません。新しいオブジェクトが同期されると、オブジェクトのリレーションシップに次の順序で優先度が設定されます。

- システム定義の標準オブジェクトのリレーションシップ
- 標準参照 ID フィールド (アルファベット順)
- カスタム参照 ID フィールド (アルファベット順)

1. Contact Builder で、[データソース] タブをクリックします。
2. [同期済み] タブで、アカウントの連携を介して接続されたデータソースを選択します。
3. [オブジェクトの設定] をクリックします。
4. Contact Builder に取り込むデータが含まれるエンティティの [同期] をクリックします。
5. 同期するフィールドの横にあるチェックボックスを選択し、[次へ] をクリックします。
6. [レコードのコレクション] ボタンを使用して、インポートするレコードを選択するために同期済みレコードをフィルターします。
 - すべてのレコードをインポートするには、[すべてのレコード] を選択します。
 - メールアドレスを含むレコードのみをインポートするには、[メールアドレスを含むすべてのレコード] を選択します。
 - 指定した日付以降に作成されたレコードのみをインポートするには、[次の日付以降に作成されたすべてのレコード] を選択します。
 - ブール値フィルターを使用してレコードをインポートするには、[次を含むすべてのレコード] を選択して Boolean 値を入力します。属性を選択して演算子を設定し、[True] または [False] を選択します。

パフォーマンスを向上するには、[レコードのコレクション] ボタンを使用して、同期したレコードのデータフィルターを実装します。アクティビティに必要なレコードのみを同期する日付を選択できます。

Engagement での連絡先レコードの重複を回避するには、メールアドレスレコードを含まないレコードをすべて除外します。最後に、ブール値フィルターを使用して、インポートされるレコードの範囲を絞り込むことができます。

7. [同期スケジュール] ドロップダウンメニューで、データを同期する頻度を選択します。
8. [保存] をクリックします。

各データソースで、オブジェクトの名前と外部 API キーの両方が表示されます。この名前を使用して情報を検索し、同期済みデータエクステンションを管理します。[同期したデータソース] には初回同期時に行数が表示され、30 秒ごとに更新されます。

Journey Builder 連携

Journey Builder は、自動化された反応型マルチチャネルキャンペーンを作成するために使用される Marketing Cloud アプリケーションです。Journey Builder を使用して、ブランドのジャーニーの各ステージで顧客にリーチするコミュニケーション計画を作成します。Sales Cloud または Service Cloud 内で特定の Journey Builder 機能にアクセスするように組織の Marketing Cloud Connect を設定します。たとえば、ジャーニーのステップとしてリード、取引先責任者、またはユーザーをジャーニーに追加したり、Salesforce オブジェクトを更新したりします。

Sales Cloud と Service Cloud のアクティビティ

Sales Cloud と Service Cloud のキャンバスアクティビティを Journey Builder で使用して、接続されている Marketing Cloud の連絡先のオブジェクトレコードを作成または更新します。Marketing Cloud 管理者ロールを持つユーザー以外のユーザーには、Sales Cloud および Service Cloud のアクティビティを作成または編集するためのアクセス権を付与できます。

Salesforce データイベント

Salesforce データイベントは Sales Cloud または Service Cloud 内のアクション (オブジェクトレコードの作成や更新など) であり、連絡先をジャーニーに追加します。主オブジェクトがルール条件および参照オブジェクト絞り込み条件を満たすと、Flow Builder によって Journey Builder のイベントが開始されます。

Sales Cloud と Service Cloud のアクティビティ

Sales Cloud と Service Cloud のキャンバスアクティビティを Journey Builder で使用して、接続されている Marketing Cloud の連絡先のオブジェクトレコードを作成または更新します。Marketing Cloud 管理者ロールを持つユーザー以外のユーザーには、Sales Cloud および Service Cloud のアクティビティを作成または編集するためのアクセス権を付与できます。

Sales Cloud アクティビティは、Salesforce SOAP API を使用して、作成、参照、および更新を行います。アクティビティを構成する場合、[作成]、[簡易更新]、および [検索と更新] の 3 つのオプションがあります。作成または更新が正常に終了すると、生成されたレコード ID がアクティビティの出力データとして保存され、ジャーニーデータを介してそのデータにアクセスできます。

アクティビティは非同期です。更新回数によっては、Sales Cloud への更新が即時に行われない可能性があります。更新プロセスには最大 24 時間かかります。UNABLE_TO_LOCK_ROW エラーの失敗のみが最大 10 回再試行されます。

アクティビティでは、Marketing Cloud Connector と同じバージョンの Salesforce SOAP API が使用されます。

Sales Cloud または Service Cloud アクティビティをコピーする場合、アクティビティを再度構成する必要があります。

アクティビティを使用して、次のアクションを実行します。

- Marketing Cloud の連絡先がジャーニーにエントリされたとき、リードを作成する。
- ジャーニー内のエンゲージメントに基づいてリードを更新する。
- Marketing Cloud の連絡先がアクティビティに達したとき、CRM 取引先責任者レコードを作成する。
- CRM 取引先責任者レコードを Marketing Cloud 連絡先データで更新する。
- ジャーニー内のエンゲージメントに基づいてカスタムオブジェクトを更新する。

- オブジェクトに割り当てられているユーザーにメールを送信する (一部の構成で可能)。
- リードや取引先責任者など、その他のオブジェクトがジャーニーにエントリされたとき、ToDoを作成する。
- ケースまたはToDoを取引先(アカウント)に関連付ける。
- ジャーニーでの連絡先またはリードの応答に基づいてToDoを更新する。
- 個人取引先または法人取引先を更新する。

Sales Cloud と Service Cloud のアクティビティ種別

オブジェクトアクティビティ

ジャーニー内の連絡先がこのアクティビティに達したときに、標準的なSalesforceオブジェクトレコード(リード、ToDo、カスタムオブジェクトなど)を作成または更新します。リードやToDoなどの標準的なSalesforceオブジェクトレコードまたはカスタムオブジェクトレコードの作成や更新を行うには、このアクティビティを使用します。

キャンペーンメンバーアクティビティ

キャンペーン、連絡先、リード間の接続を作成します。これは、キャンペーン内のステータスとの関係を定義するのに役立ちます。ジャーニー全体でエンゲージメントの重要な瞬間を追跡するには、このアクティビティを使用します。

リードの取引開始アクティビティ

Sales Cloud と Service Cloud の適格なリードを取引先責任者か取引先に変換します。このアクティビティでは、リード所有者の割り当て、商談やToDoの作成、リードの取引開始ステータスの変更などの重要なアクションがスケジュールされます。

タスクアクティビティ

このアクティビティに達したMarketing Cloudの連絡先ごとにSales Cloud およびService CloudのToDoを作成します。詳細は、「[Marketing Cloud Connect](#)」を参照してください。

アカウントアクティビティ

このアクティビティに達した連絡先ごとにSales Cloud およびService Cloudの取引先を作成または更新します。個人取引先がある場合、法人取引先と個人取引先の両方のアクティビティを作成または更新できます。個人取引先を使用するアクティビティを構成する方法についての詳細は、「[Sales Cloud と Service Cloud のアクティビティで個人取引先を使用する](#)」を参照してください。


連絡先アクティビティ

ジャーニーに取り込まれたSales Cloud またはService Cloudのデータや、Marketing Cloudの連絡先データを使用して、Sales Cloud またはService Cloudからの取引先責任者を作成または更新します。

ケースアクティビティ	ケースを作成し、それを Marketing Cloud の連絡先の ID に一致する Sales Cloud および Service Cloud の取引先責任者に関連付けます。または、ケースに関連付ける Sales Cloud および Service Cloud の取引先責任者を作成します。
リードアクティビティ	ジャーニーに取り込まれた Sales Cloud または Service Cloud のデータや、Marketing Cloud の連絡先データを使用して、Sales Cloud または Service Cloud からのリードを作成または更新します。
商談アクティビティ	Sales Cloud および Service Cloud の商談アクティビティを作成します。Marketing Cloud の連絡先属性を使用して、商談レコードのフィールドに入力するか、選択した固定値を各レコードに入力します。
従来のアクティビティ	Sales Cloud と Service Cloud のキャンバスアクティビティは古いジャーニーに表示されますが、新しいジャーニーでは使用できなくなりました。


Salesforce データイベント

Salesforce データイベントは Sales Cloud または Service Cloud 内のアクション (オブジェクトレコードの作成や更新など) であり、連絡先をジャーニーに追加します。主オブジェクトがルール条件および参照オブジェクト絞り込み条件を満たすと、Flow Builder によって Journey Builder のイベントが開始されます。

 **メモ:** Marketing Cloud 管理者ロールを持つユーザーを除き、ユーザーには、Salesforce イベントを作成または編集するためのアクセス権を付与できます。

イベントを構成するときに次の項目を検討します。

- エントリーイベントのソースとして Sales Cloud または Service Cloud オブジェクトを使用する
- ユーザー、リード、連絡先など、ジャーニーにエントリする人
- レコードの作成時や更新時など、ユーザー、リード、または連絡先がジャーニーにエントリするタイミング
- 誰がジャーニーにエントリするかを絞り込むための属性をオブジェクトデータから選択する
- 関連オブジェクトとエントリオブジェクトから、ジャーニーデータで使用するフィールドを選択する

 **メモ:** 選択するフィールド数を 250 以下に制限してください。オブジェクトあたりのジャーニー数を 80 以下に制限してください。

各レコードには、ジャーニーにエントリするユーザー、リード、または連絡先の ID、メールアドレス、およびメールオプトアウトフラグのステータスが含まれます。

エントリソースを構成した後、エントリソースで使用するオブジェクトや、ジャーニーに誰をエントリするかを編集できなくなります。異なるオブジェクトを選択するには、エントリソースを削除して再作成します。構成済みのエントリソースのエントリ条件、フィルター、およびイベントデータは、エントリソースを公開する

前に編集できます。Salesforce エントリソースを含むジャーニーをコピーでき、エントリソースを再利用できません。

- ☑ **メモ:** Salesforce エントリソースは、他の実行中のジャーニーまたはバージョンで使用されていない場合にのみ編集可能になります。

エントリソースを保存すると、Marketing Cloud は、イベントデータを列として使用し、連絡先 ID を購読者 ID として使用するデータエクステンションを作成します。ジャーニーの公開時にエントリソースの条件を満たすレコードがこのデータエクステンションにインポートされます。レコードが条件を満たすたびに行がデータエクステンションに作成されますが、既存の行は更新されません。同じレコードがジャーニーに複数回エントリする場合、そのレコードをデータエクステンション内で複数持つことができます。詳細は、「[ジャーニーの設定](#)」を参照してください。

- ☑ **メモ:** Journey Builder のテストモード機能では Salesforce エントリソースはサポートされません。

Marketing Cloud と Sales Cloud 間の連携では、[フロー](#)、[プロセスビルダー](#)、[Apex](#)、[プラットフォームイベント](#)、および [SOAP API](#) が使用されます。このため、Salesforce データイベントはすべての APEX ガバナ制限の対象になります。Journey Builder のイベントや独自のプロセスまたはフローをオブジェクトの保存順序に追加すると、組織内で制限が出現したりそれを超えたりすることがあります。連携ジャーニーをアクティブ化すると、Sales Cloud の [フローメタデータ API](#) により、エントリ構成で指定された条件でオブジェクトのフローが起動されます。このツールを使用すると、ビジネスをバックグラウンドで実行することができます。オブジェクトの使用方法と、オブジェクトがエンドツーエンドでどのように機能するかを示す例を以下に示します。

Apex ガバナの制限事項

Salesforce データイベントは、すべての APEX 制限つまりガバナ、およびプラットフォーム内のプロセス制限の対象になります。Journey Builder のイベントまたはプロセスビルダーとフローをオブジェクトの保存順序に導入すると、組織内で制限が出現したりそれを超えたりすることがあります。

- **50 件の Future 呼び出し:** 5.496 より前の Marketing Cloud Connect パッケージでは、Journey Builder が `future` アノテーションを使用して直接コールアウトしていました。このアクションにより、Journey Builder のイベント条件を満たすレコードが 50 件を超えるトランザクションでエラーが発生します。このエラーを回避するには、Marketing Cloud Connect パッケージ 5.496 以降を使用してください。
- **レコードが 2,000 件を超えるトランザクション:** 保存トランザクションは、2,000 件以内のフロー呼び出しに制限されています。この制限では、最大 2,000 件のレコードが、トランザクション内のフローに入ることができます。複数のフローがトリガーされるか、レコードが 2,000 件を超えるトランザクションを生成するカスタムロジックが組織にあると、フロー呼び出しは失敗します。操作するオブジェクトの数を減らすには、トランザクションを変更します。
- **最大 CPU 時間:** イベントにより、対象オブジェクトの保存順序トランザクションにステップが追加され、トランザクションに割り当てられている CPU の一部が使用されます。この制限を超えることを回避するには、プロセスの追加を監視します。
- **50 件の System.enqueueJob 制限:** Journey Builder の各コールアウトは、呼び出し可能メソッドとしてキューに登録されます。各トランザクションでは最大 50 個の呼び出し可能メソッドをキューに登録でき、200 件までのレコードを処理できます。オブジェクトが複数のイベントの条件を満たす場合、単一オブジェクトの 50 件の固有イベントで、この制限に達することがあります。この制限は、Journey Builder 以外のトリガーとフローで共有されます。

関連する Sales Cloud 組織または Service Cloud 組織の変更

Marketing Cloud アカウントに接続している Sales Cloud 組織または Service Cloud 組織を変更した場合は、関連付けられたすべてのジャーニーとイベントを削除してください。ジャーニーは、新しい組織に存在しないオブジェクトやフィールドを参照している可能性があり、パブリッシュが失敗する原因となります。新しい組織を参照するようにジャーニーとイベントを作成してください。

既知の問題

- 更新トランザクションが完了する前にプラットフォームイベントの Apex ジョブが実行される
- 同じトランザクションの後半で別のプロセスビルダーが終了した場合、Journey Builder の Salesforce 連携イベントが必ずしも起動しない
- Marketing Cloud へのバッチ API コール内の 1 つの連絡先が失敗した場合、バッチ全体で追加が失敗する。